

# 八十年ズキ

創立十周年記念誌



大阪府立泉鳥取高等学校

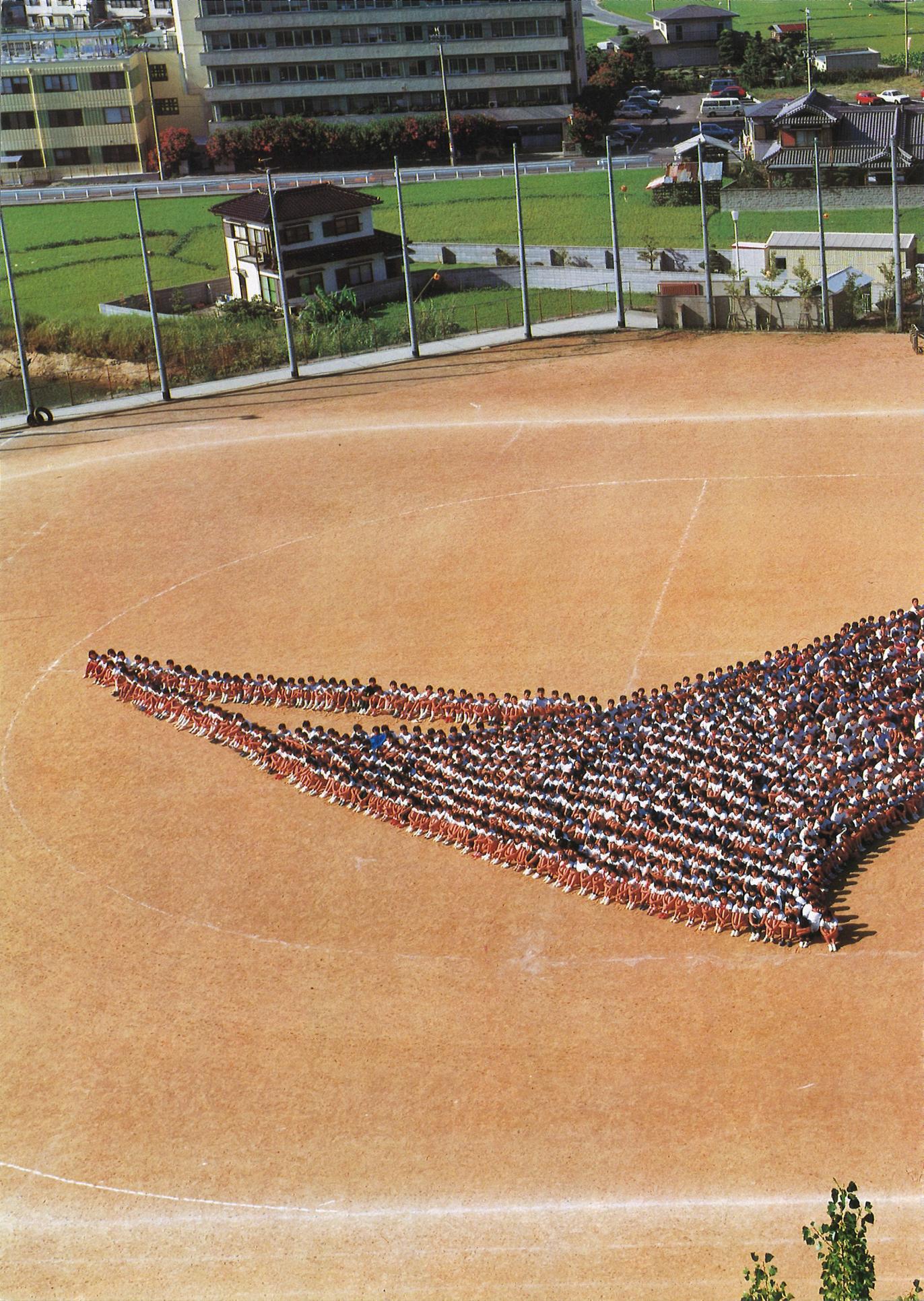


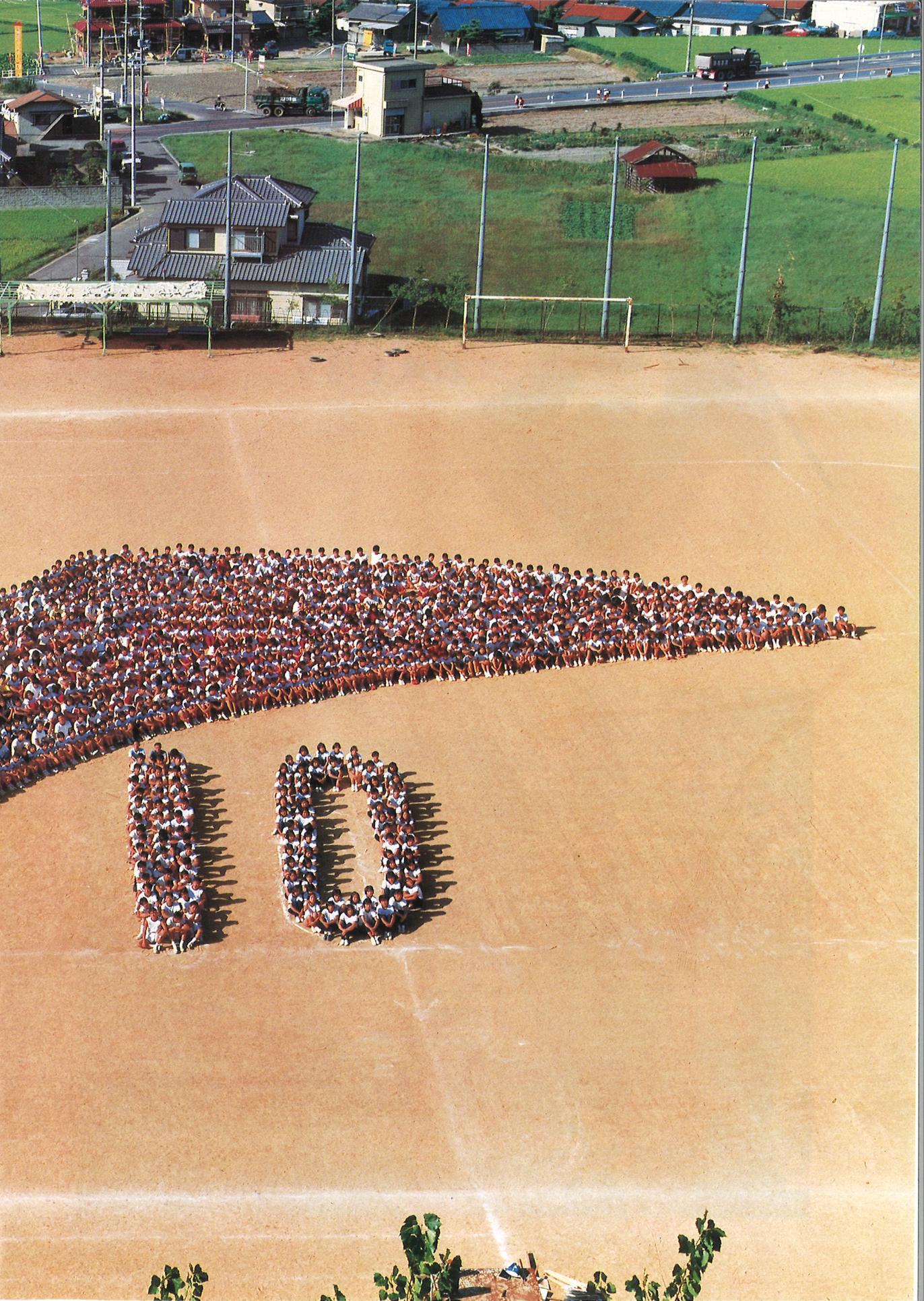
# ハナミズキ













## 自主研精

自ら進んで学び  
実践と勤労を尊ぶ健全な  
校風を培う



●目次

1. 挨拶	_____
3. 祝辞	_____
8. 沿革	_____
9. 校歌	_____
11. 10年のあゆみ	_____
●授業風景	_____
●行事	_____
●よりよい教育のために	_____
29. P'T Aのあゆみ	_____
31. 同窓会のあゆみ	_____
32. 10年史アラカルト	_____
●こぼればなし・うらばなし	_____
34. クラブ紹介	_____
●体育系	_____
●文化系	_____
43. 旧職員より一言	_____
49. 同窓生から一言	_____
52. 資料	_____
●進路指導部	_____
53. 旧職員異動表	_____
55. 現職員一覧表	_____
56. 編集後記	_____



## 創立10周年を迎えて

学校長 岸本 忠一

昭和51年4月1日歴史的由緒の深い『自然の丘に緑萌え 希望にあふれる学舎は』と校歌に歌われている鳥取の荘の台地に黎明が輝く如く、府立高校第百四番目の新設校として誕生してから早くも本年で10年目の記念すべき秋を迎えることになりました。

ここにPTA・同窓会並びに地元の熱い期待とご支援に支えられて創立10周年記念行事を催し10年の歩みをつづる記念誌を刊行する事は意義深いものがあり、真に慶びに堪えません。

顧みますと ここ泉南の地は時代の要求により急激に都市近郊の住宅地として急速な変貌を遂げつつある時、地元の強い要望によって本校が発足し、関西新空港産業による活性化の動きにより、近代的文化圏として整備計画が着々と推移している様相が顕著になってきつつあり、その中で本校は淡路島や阪神間の各港や、遠く四国を見晴らす眺望の素晴らしく美しい台地に四万八千平方メートルある広大な校地、ゆったり点在する恵まれた施設・設備と段差のある格好の運動場があり、堂々とした景観の校舎は情緒豊かな人格育成をめざす絶好の学習場所であります。

このような条件の中で日熱心な教育活動ができますことは、これひとえに教育委員会、関係地域の方々、PTA、同窓会の皆様方の温かい援助と御支援によるものと厚く感謝しております。

また創業の期 草創の重責を負われた初代石川正敏校長は種々困難を克服されて、全校教職員の協力あって創設期の諸条件を整えられ、二代目八木幸治三代目吉岡光雄両校長は更に幅広い基礎固めにご努力され、充実した教育的軌跡を画いてまいられました。私は歴代校長の上に立って更に充実発展の責務を帯びて、四代目校長として着任しました。直ちに10周年記念行事委員会を設け記念式典、記念誌等記念行事の推進を図ってきました。

さて創立以来卒業生も3137名となり、それぞれ

実社会へと進出し、各方面で立派に活躍している事は、真に頼もしい限りであり猶一層の飛躍を希うものであります。

十年一昔ということばがあります。十年を一区切りとして、それを大きな節目として固め、更にもその基礎の上に乗って次の新しい節への出発点とし、この期を契機として本校が校章の、希望にむかって勢いよく羽搏く鳥の如く逞しく二十一世紀へと大きく羽搏く年であります。

この区切りの年に当たり『故きを温ねて新しきを知る』の孔子の故事により過去の十年を振り返り、現在に甘え満足することなく、創設の初心を想いこの十年間科学技術の超速の進歩に加えて、高校生の急増、急減期を迎え、教育改善が大きな課題になり、臨教審問題等で揺れ動く社会状況の推移をよく見極め本校百年の大計を基にして、カントの教育論に『いろいろな天賦の素質を調和的に発展させ、それらの萌芽から人間性を発展させて、人間とその本領を完うさせることである』と言っている上に立って、生徒一人一人に基礎的、基本的な学力を身につけさせ、目的意識を確立させて、目的達成のために進んで困難に立ち向かう精神力を持った、豊かな人間性育成に尽力致します。

特に特色ある学校づくりの一面として59年度より高度情報システムとして、コンピューターを導入し、三年生の選択教育で情報処理を中心に他教科でも活用する指導を実施しており、更に芽ばえつつある伝統や校風を発展させ、本校の校訓『自主研精』の精神を生かし、二十一世紀に大きく羽搏く英知ある生徒の育成を目指し、教育の充実、発展に努力してまいります。

最後になりましたが10周年記念事業のためいろいろ尽力賜りました皆様方に対しまして深甚なる謝意を表し、本校の永遠の発展を祈念して、挨拶にいたします。



## 大いなる未来へのステップに

教頭 反甫 昌三

私にとって泉鳥取高校は、教頭として勤務することになった最初の学校であり、丁度、泉鳥取高校が創立10年目を迎えた意義ある年であります。従って10周年行事に関しては、岸本校長、加藤前教頭（現上神谷校長）をはじめ準備委員の先生方で、そのほとんどの企画、準備がなされており、それに途中より一枚加わらせてもらったという次第です。

さて、10年という歳月は、振り返れば短いようでも本当に苦しい道程であったと思います。学校草創の揺籃期に勤務された教職員の方々の御努力には敬意を表さざるを得ません。一人ひとりの生徒を深く理解し、その持てる能力を可能な限り伸ばそうとする為の努力。— 家庭訪問や補講習の努力。— 一部活動の充実。— 放課後や休業中の部活動に励まれている大勢の先生方の姿。 就職の為の企業開拓に全教員が一致協力してのアタック。

同和教育推進のための全教職員の協力体制、校内研修などを考えるとき、歴史の浅い学校としてよく頑張ってくれたと感じています。

しかし、欲をいえば、草創期の教職員や保護者、地域住民が期待し目指していたことが、すべて現在の泉鳥取高校で実現されているということではないと考えます。生徒や保護者の望んでいる進路

に果して進めたかどうか。三ヶ年間で生徒の能力をどれ程伸ばすことが出来たか。社会生活に適応できる基本的な生活習慣が身につけられたか等を考えるとき、一部生徒の中には教科書等を持ち帰らず机の中に放置していたり、教室の窓から紙飛行機をとばしたり、廊下にチューインガムのカスがこびりついていたり、服装や登下校のマナー等の現状を見ると、これは一体どうなっているのかと、とまどいを感じざるを得ません。また生徒だけでなく教職員の側にも、— それぞれの組織、分掌が適正で充分機能しているか。貴重な経験や蓄積が充分生かされているか。率先垂範（生徒に教師自らが範を示す必要がある。これが教育の原点と思う。）が実現しているか。など検討してみる必要がありはしないだろうか。

今、創立10周年記念を迎えるにあたり、こうした諸先輩の方々の努力の結晶を深め発展させていくと同時に、現状を再点検して課題というか、問題点を吟味していかなければと考えます。そうすることにより、今、我々が成すべき事が何であるかが明確になってきます。

この10周年を是非とも一つの契機にして飛躍したいと願っています。



## 祝 辞

二代校長  
八木 幸治

大阪府立泉鳥取高校創立十周年記念式典を举行されるに当り、心からお喜び申し上げます。本校は昭和51年4月第104番目の大阪府立高等学校普通科として創立され、以来今日に至るまで順調な発展を遂げて来られたのであります。その間、本校の発展に尽くされました全教員の各位をはじめ、PTA、同窓会の皆様方のご苦勞に対しまして、深く敬意を表するものであります。

私は昭和54年4月1日、第2代校長としてその重責を果すべく着任し、56年3月まで勤務させていただきました。在職中はこれといって何ら為すことなく、あっという間の2年間でありました。吉岡教頭先生を初め全職員の皆様方に支えられ、またPTAの皆さん方の並々ならぬご協力によりまして、その重責を果すことができました。ほんとうにありがとうございました。

生徒諸君の澆刺たる姿、他に比をみない堂々たる校舎、先生方の厳しい指導、長時間にわたる職員会議、PTAの研修行事等どれをとっても私の一生で貴重な思い出であります。泉陽高校に転動してから卒業式に参列する位で、いつもご無沙汰ばかりで大変申し訳なく思っています。銀行やデパートの中で私を見かけた卒業生の方から「校長先生」といって声をかけてくれます。ありがたいことです。どうか校長先生を中心として職員、生徒が一丸となって、ますます隆勢なる前途を開拓され、本日の式典をして誠に光彩あらしめられるよう心から念願してやまないものであります。



## 大空高く翔け征かん

三代校長  
吉岡 光雄

泉鳥取高校関係者の皆さん、創立10周年おめでとうございます。昭和51年1月1日開設、4月1日開校以来8年3ヶ月を教頭、校長として泉鳥取高校と共に生きて参りました私にとって10周年を迎えられたことはこの上もなく嬉しいことであります。

昭和50年10月1日府立第104高校の教頭予定者として高等学校等設立準備室兼務の辞令を載き初代校長故石川正敏先生にご挨拶申し上げ教頭職の第一歩を踏み出しました。実は前々日(土)の夜在任校の校長先生から内示を載いた時、「阪南町にできる学校」と承り一体何処にできるのか頭に浮かんでこず地図を拡げてようやく阪南町を見出したのを今もまざまざと思い出します。10月7日石川先生と初めて校舎建設現場を訪れ拡大な敷地と素晴らしい眺望に恵まれた環境に希望と期待に胸の脹らむ思いと同時に「遠いなあ」と思ったのも事実です。開校以来年を追って校舎建築、施設設備の充実、環境整備が進み、昭和53年2月23日第一回卒業証書授与式を举行する時には今日の雄姿が紀泉山脈の山麓の丘に聳え立って道行く人の目を惹いていました、日々出退勤の際、阪和線と泉鳥取駅より校舎を眺めて感慨を新たにしました。そこに至るまでのPTA、地域社会のご後援、ご支援は並々ならぬものであります。当時の一員として改めて厚くお礼申し上げます。

さて「一年之計、莫如樹穀、十年之計、莫如樹木、終身之計、莫如樹人。」(管子)これより教

育は国家百年の計なりとよく言われます。見方を換えると「望ましい人間を創るのには百年（一個人にとっては一生）かかる」ということでありましょう。とすれば「望ましい人間像」も百年間同じであるはずで。教育特に家庭教育、初等中等の学校教育の目的、目標、モットーは時代を通じて不変なものでなければならぬと思います。即ち人間を信ずる以上教育目標は歴史を閲して崩れえぬものであるはずだと私は確信いたしておりそれが私の教育思想の基定であり要約すれば「格物致知」であります。

時は流れ、人は移り行きます。20周年を迎える昭和70年には私は泉鳥取高校の皆さんにとって浦島太郎でありましょう。しかしその未来人と私は互に路傍の石ではありません。なぜならば泉鳥取高校という「火の鳥」（手塚 治著）にそれぞれの生命が連続しているからであります。

若く、逞しき、火の鳥泉鳥取高校よ、翔け征け、大空高くどこまでも！



## 開校時の思い出

初代事務長  
大沢 温幸

開校されて10年、この間充実発展の一途を歩まれました泉鳥取高校に敬意を捧げますとともに、記念誌の発刊をお慶び申し上げます。

私は51年1月1日付にて泉鳥取高校の事務長を命ぜられました。1月の新学期早々に和泉高校の一室に開校準備室を設けまして事務を始めました。とはいいまでも、何からどう始めてよいのか、府教委の高等学校設立準備室や新設先輩校のご意見を参考に、連日、校長、教頭先生と3人が鳩首

協議をしたものです。

現地を視察した折にも、雑然とした敷地の中に校舎が未だ足場に囲まれ、内装工事に入ったばかりのところ、これで果して3月1日からの志願者受付、更には選考テスト、入学式に間に合うのかと、驚きと不安で一杯になったことを思い出します。2月の末に新しい学校に事務室を移し、本格的に備品、設備の受け入れ、入試準備、新入生の受け入れ、PTAの結成、通学対策等に南海バスとの交渉等、兼務発令された先生方と共に、あの短い間によくできたものと想いおこされます。

1期生の諸君が泥だらけの校庭を板や石の上を伝って、不安気に願書を入れた封筒を抱いて受付に来た様子、第1回入学式を天候を心配しながら未整地の校庭で行なったことなど思うにつけ、今、堂々とそびえ立つ校舎と、益々充実発展されて行く泉鳥取高校の現状を見た時、感慨深いものがあります。

最後に泉鳥取高校の無限の飛躍をお祈りします。



## 一層の発展を望む

現事務長  
易本 清昭

大阪府立泉鳥取高等学校創立10周年に当りまして心からお祝い申し上げます。

本校は、関西新国際空港予定地を眼下に緑豊かな、最近住宅建設が進んでいますが、風光明媚な鳥取荘丘陵に位置して偉容を誇っております。今日ある学校を築き上げてこられた教職員、PTA、同窓会、その他関係者及び生徒達の並々ならぬ御苦勞に感謝申し上げます。

さて、昨今の教育問題をとりまく環境には非常

# 祝辞

に厳しいものがございます。近年に至り、受験競争の激化、いじめ、登校拒否、青少年非行などの現象が目立ち、これの解決について関係機関で熱心に取り組まれているところであります。又、現在の景況は順調に推移しているようでありますが、貿易摩擦の激化、行財政改革、技術革新の進展等大きなうねりが進行しております。これら大問題もマスコミの発達、国際化の進展等ですぐさま私達の頭上に影響が及んでくる場合もあるので、傍観できないと存じます。

本校においては、この学校環境の厳しい中で、10年の蓄積の上に立って、時代の流れの変化に十分対応しつつ、教育目標の達成、学校設備の一層の充実に努力して、地域の誇れる府立高校として発展していくことが強く期待されているところと存じます。

本校関係者の皆様方におかれましても、本校に対し今後とも絶大なる御支援と御協力を賜わりますようお願いする次第であります。



## 10周年を祝して

初代PTA会長  
根来 正男

泉鳥取高校創立10周年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。一部校舎建設工事の音響の中で、第一期生450名を迎え、スタートした授業の様子、体育活動のため、整備されていないグラウンドの石拾い等、先生方と生徒達が懸命に学校創りをされている様子が思い出され、創設当時の思い出は尽きません。

なかでも、PTA発足に向かって5月17日第一回総会を行ない、積極的なPTAの発足を見るに

至りましたことも忘れ得ぬ思い出の一つです。

特に予算については、初年度の会費収入では現状いたし方ないと言う状況でしたが、先生方の情熱と会員皆様方のご努力により、広報の最初の行事として6月4日PTA新聞第一号の発刊を見る事ができました。また、泉鳥取高校では生徒諸君の自主性と創造性の尊重をねらいとした、宿泊訓練が行われており、その目的が、「自主的精神の育成」「人間のふれ合い」及び「生活習慣の形成」等をねらいとして、共に規律を守り責任感を養う学習をされており、先生方のひたむきな情熱とご努力により年ごとに鍛えられ、充実感が満ちてきております。

この10年の歳月の中で、泉鳥取高校は確かな歴史を創られてきました。初代の校長先生が、山の高台の風光明媚な処に立った校舎に、地元の子供たちが「大きくなったらあの学校へ入るのだ、それにはよく勉強しなければ」と夢見る高校にしたと言っておられました。

先生方も進路指導、生活指導に研鑽され、活気ある学校教育が満たされてきました。

第一期卒業生を始めとして先輩諸君も社会人として母校の名声を高らしめようとしています。

青年すべからく志を立てて、日夜学ぶことこそ大切かと存じます。そこに師弟同行の姿があり、真に教育の殿堂となるものと信じます。

巷間語られておりますように最近の教育事情はかなり逼迫した問題を数多く包蔵しております。

これらの問題の解決は、一人ひとりの青年が己の人生を如何に価値あらしめるかを自覚し、みずから志をたて、それに向かって努力を積み重ねることにあると思います。

今後特色ある高校を築いて下さることを念願す

ると共に、PTA活動がますます発展しますよう  
心から祈念し、ご挨拶いたします。



## 10周年を祝して

現PTA会長  
土生 貞雄

泉鳥取高等学校創立十周年を迎えるにあたりま  
して、心よりお祝いを申し上げます。十年一昔と  
申しますように、過ぎ去れば早いものですが、こ  
の間の教職員の皆様方並びにPTAの諸先輩役員  
方の並々ならぬ御努力に厚く感謝申し上げます。  
新設校で歴史も伝統もなかったのが、日を追って  
充実し、年とともに向上発展してまいりました。  
満十年の風雪を経、年輪を刻んだこの期に、PT  
A会長として出会えたことは無上の喜びを感じま  
すとともに、PTA発足当初より営々と築いてこ  
られました発展の歴史を受け継ぐものとしまして、  
責任の重大さを痛感する次第であります。

本校は眼下に大阪湾が広がり、淡路島、遠くは  
神戸沖まで見渡せるすばらしい眺望の地にありま  
す。また四季を通じてさわやかな風が吹きわたり、  
様々な野鳥の囀りが、若いこの学園にいつも新し  
い息吹をもたらしてくれているかのようです。こ  
の恵まれた自然環境の中で、年々学校内外の環境  
が整備され、生徒がのびのびと勉学に、またクラ  
ブ活動に勤しむまでの立派な学校に育ってまいり  
ましたことは誠に喜ばしいことと申せましょう。  
生徒諸君はこの泉鳥取で得た先生方や仲間との出  
会いを大切に、思う存分若いエネルギーを発  
揮してってもらいたいと思います。

十年目という一つの節目を迎え、本校もようや  
く基礎固めの段階から次の節目に向って大きな飛

躍がうかがえます。これまでの十年を足がかりと  
して、新しい時代の泉鳥取高校として時代の求め  
る人材の育成に努められ、一層の向上発展をお祈  
り申し上げます。



## 創成期の思い出

初代同窓会会長  
許斐 雅文

泉鳥取高校創立10周年おめでとうございます。  
早いものですね。私たち、1期生が卒業して7年。  
私も25歳。10年前、在学中に24、5歳の先生を、  
おじん呼ばわりしていたことを思い出すと何となく、  
寂しい感じがします。初め創立10周年のお話を  
聞いたとき、「えっ！」となりました。私にと  
って、10年も過ぎ去ったとはどうしても思えな  
いからです。なぜなら、「高校3年間の思い出」  
が今もはっきりと残っているからです。

10年前、私たちの入学当初、丘の上に今の半分  
ぐらいの校舎が2つ、ポツンと建っているだけで  
した。その校舎の周りは恐しいぐらい荒れた土地  
とグラウンド。そのため、クラブはまずグラウンド整  
備とコート作りから始ったのです。トラックでグ  
ラウンドに土を入れてもらい、それを一輪車でコ  
ートまで運び、地面を固める…それが毎日のクラブ  
練習でした。体育館もなく、雨の日など、クラブ  
はもちろん体育の飛びばこの授業まで渡り廊下で  
やったものです。2年生になり、体育館、食堂、  
プールができると同時に感激したものです。

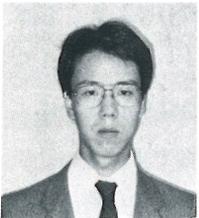
文化祭、自分たちの作ったものを学校外の人に  
見てもらおうと、公開の話が持ちあがりました。  
話し合いやっとな公開にこぎつけたときの感激は今  
も忘れられません。

# 祝辞

一つ一つの思い出がはっきりと頭に残っているのも「自分たちで学校を作った！」という思いが強いからでしょう。私は今でも、高校時代のことを友だちに自慢します。それだけ、あの3年間は楽しかったのです。

現在、在校生の皆さんは、「自分たちの学校を作っていますか？」何もかも昔のままであるのは、卒業し社会に出るともの足りなく感じると思います。たとえ反対されても、あきらめるのではなく力を合わせ、がんばってほしいと思います。それが、「泉鳥取高校の発展」につながっていくのではないのでしょうか。

最後に、泉鳥取高校の今後の御発展と皆様の御健康を心よりお祈り申し上げます。



## 祝辞

現同窓会会長  
井上 純男

“泉鳥取高校の創立10周年”これは私など1期生にとってはそのまま高校入学以来の10年にあたります。

この10年間には世界中で実に様々な出来事があり、この文を読まれる方々にもずいぶん多くの思い出があるものと思います。

私個人をとってもその例外ではありません。

昭和51年4月、私たちが入学した当時の泉鳥取は、現在の1/3程度の校舎と正門、裏門があるだけのやたら空地だけが目につくような学校でした。

それからの3年間というものは、毎年何かしら増築の工事が行なわれ、まさに一つ一つ作り上げられていきました。

今泉鳥取高校に立ちよりますと、学校に必要な設備はほとんど備えられ、それがまるで始めからここにあったような感さえ受けますが、中庭にある時計台に書かれた“贈 第1回卒業生一同 昭和五十四年三月一日”とある文字を見ると、この学校が私たちの在学中にはついに完成せず、卒業後来校した時この姿を見た時、“もっと早く作ってほしかった。在学中に見せてほしかった”と少しくやしく思ったことを思い出します。

それからもう7年の年月が過ぎた今、この学校に集う学生にとってここはもう普通の“学校”であり、中学校の進路指導に従って自分の成績に応じて選択された一つの学校にすぎないのかもしれない。

これは当然の結果かもしれませんが、創立から5年という混乱期に高校生生活を送り、“泉鳥取の学生は、一期生 450人のみだ。おまえたちの行動が泉鳥取という学校を作る。おまえたちのやる事が学校の値うちを決める”などと言われ続けた少数の人間にとってどうも自分たちの感覚に合わなくなってしまった。

10周年を迎えて学校にとっては一つの区切りを迎えてこれからもさらに多くの学生を世に送り出し、また学内においても、クラブ活動、学校行事などにもより一層の発達をはかる時期になっています。

その中で学校を代表する学生には今よりさらに多くの努力を望み、又先生方にもさらに多くのご尽力をお願いして将来に向けての挨拶にかえさせていただきます。

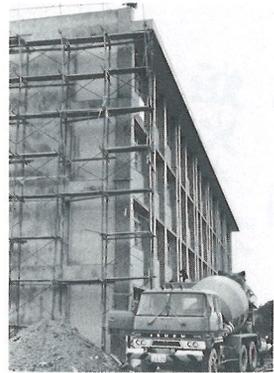
1



2



3



## 沿革の概要

昭和50年3月13日 定例府議会において本校設立のための建設予算が議決。

昭昭50年4月1日 大阪府教育委員会事務局高等学校等設立準備室において開校準備事務を開始。

昭和51年1月1日 大阪府立泉鳥取高等学校として設置される。

昭和51年2月28日 第一期工事竣工。

昭和51年4月1日 本校が開校され、一期生450人が入学。

昭和52年2月28日 第二期工事竣工。

昭昭52年5月31日 食堂棟竣工。

昭和52年6月30日 プール竣工。

昭和52年8月31日 体育館竣工。

昭和53年2月28日 第三期工事竣工。

昭和54年3月31日 環境整備工事竣工。

4



5



6



7

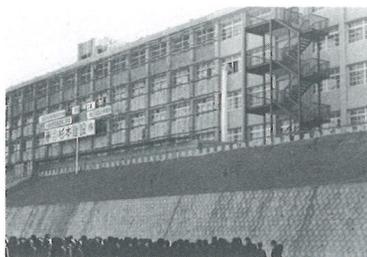


- ①昭和49年 本校建設予定地（大正不動産広告より）
- ②昭和50年4月 造成中
- ③昭和51年2月 第1期工事中
- ④昭和51年3月 第1期工事、校舎の全景
- ⑤昭和51年4月 第1期生入学式
- ⑥昭和51年 植樹風景
- ⑦昭和52年 体育館建設工事
- ⑧昭和52年 第2期工事中
- ⑨昭和53年5月 正門風景

9



8



# 校歌

## 校歌

一 自然の丘に緑萌え

朝日に輝る茅渚の海

希望に溢る学舎は

あゝ我らの泉鳥取

二 田面に渉る風清く

理想に集う吾が健児

大空高く翔け征かへ

あゝ我らの泉鳥取

三 夕星溪谷に影淡く

誠に生る友がらが

炬火を掲げて謳う

あゝ我らの泉鳥取

### 泉鳥取高等学校校歌

作詞 南 保江  
作曲 合田 書子

1. じねんのおかーに みどりも えあさ  
2. たのもにわたーる かぜきよく りそ  
3. ゆうずつたにーに か げ あわ く まこ

ひにひかーる ちーぬのーうーみ き  
うにつどーう わーがけーんーじ お  
とにいきーる とーもがーらーが きよ

ぼうにあふる ま な び や は } あ  
おぞらたか く か い け ゆ や か ん }  
かーをかか げ い ぎ う た う }

あーわれら の い ず み と っ とー り



## 作詞者からの手紙

南 保江氏

創立十周年を迎えられ心からお祝い申し上げます。

さて校歌作詞者として当時のことをと御依頼を受けまして、私と致しましては御遠慮申し上げたのですが、どうしてもとの事でとても困ってしまいました。何から思い出してどう表現すればよいのか途方にくれます。ただ、賞状を夢中で受け取った時のことだけしか思い出せません。吉岡教頭先生よりお電話をいただいて、「南さん、今回あなたの作品が入選しました。おめでとう。」と言われて信じるのが出来ず、一瞬自分をうたがいました。忘れもしない五十四年一月十八日寒々とした冷い日でした。しびれる指先に息をふきかけながら出

向きました。石川校長先生の挨拶が終り初めて立つ壇上、私は何も考える余裕もなくふるえる手を差しのべて賞状と記念品をいただきました。私にとって生涯忘れることの出来ない思い出です。校歌が常に母校の思い出の一ページとして永遠に歌いつがれていく事を心から願っております。欲張りようですが母校の校歌が他府県競技会場で高らかに鳴り響くその日も夢でない事を信じてやみません。最後に歴史を刻み由緒ある伝統校に発展されることを心からお祈り申し上げます。

学舎の苦しみ根性で超えて  
情熱かけた苦楽の青春  
働く喜び努力のあかし  
翔け社会へ人生の坂道



## 作曲者からの手紙

岸本 書子氏（旧姓 合田）

高校野球の季節。勝利校の校歌を聞きながら、もし泉鳥取高校が甲子園に出たなら、あの校歌がきけるかな、などと勝手な想像をしながらこれを書いています。一期生の皆さんが卒業して七回目の夏がやってきました。今では皆、よき社会人、よき家庭人？ になっていることでしょう。月日のたつのは早いものですね。

あの頃は私も教師になったばかり、そしてあなたがたには新設校の心意気みたいなものがあって、真剣勝負の毎日でした。文化祭も卒業式も既設校の真似でなく、独自のものを作ろうと議論にあけくれたこともなつかしく思い出します。何もかもがホームメイドのお菓子みたいに、形は整わなくても、味のある心のこもった産物でした。「校歌」

もまさに手作りです。たいてい、著名な作曲家が作る中、私ごとき一教師に作曲させていただいたことをとても光榮に思っています。あの曲は詞がとて気に入ったのでごく自然にメロディが出てきました。校歌を披露した授業のあと、αさんたちがやってきて、とてもいい校歌だといって何回もピアノにあわせて歌ってくれましたね。今、あなたたちの後輩も元気よく歌ってくれているでしょうか？

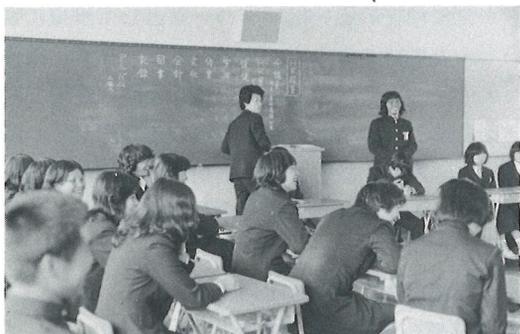
もう新設校とはいわない泉鳥取ですが、あのころの意気は、後輩たちにずっと受け継がれていることでしょう。私も卒業生の皆さんと共に、今後ずっとこの泉鳥取高校を見守っていきたいと思います。この校歌がうたい続けられる限り。



▲1980年7月 登校



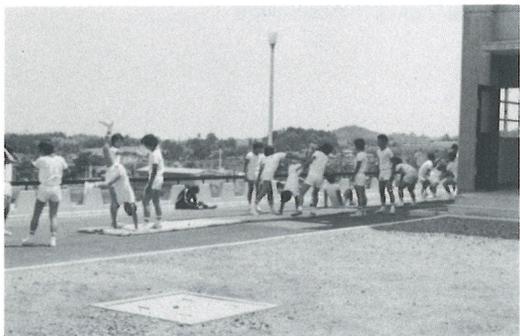
▲1981年5期生 国語の授業



▲1978年4月1期生 HRびらき



▲1985年8期生 家庭科保育所見学



▲1976年1期生 体育の授業



▲1982年7期生 ホームルーム



▲1978年2期生 生物の授業



▲1985年 下校

## 夏期宿泊訓練

昭和51～52年度 和歌山県、青少年の森にて／昭和53～60年度 鳥取県東浜海水浴場にて

教室では得にくい仲間の意識の深まり、クラスのまとまりを一つの屋根の下での集団生活から体験してもらおうと、昭和51年の夏より一年生の夏期行事として毎回行なわれてきて、今回で10回目を迎えました。

51年、52年は、山の上まで、マキや食料を運んで、夕方みんなで蚊と戦いながら作ったカレーのおいしかった事、夜のキャンプファイヤー、寝苦しかった夜を友と語りあかした事等今でも山での宿泊訓練のよさを思い出させてくれます。

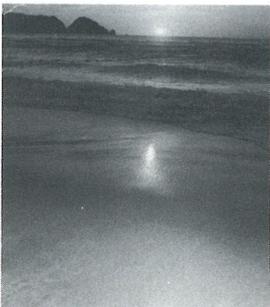
53年の3期生からは、場所を日本海の東浜にうつしての臨海訓練となりました。美しく、大らかな海の中での訓練で、生徒の命を守る教員の苦労は増えましたが、生徒の高校生活の思い出に必ず出てくるイベントになりました。特に毎回 300名程で行なわれる2時間の遠泳の後の気分は一生忘れることのできないものです。生徒同志、生徒と教員のスキンシップに寄与する効果は絶大です。



▲中央海水浴場



▲遠泳での救助



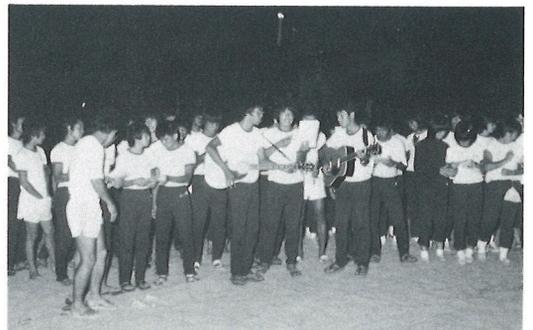
▲夕暮れの東浜



▲昭和54年 第2回臨海訓練のなつかしい教員団



▲入水前のミーティング



▲クラス行事

## 10年のあゆみ

## 野外活動の10年

本校の修学旅行は単なる観行旅行ではなく、生徒一人一人が自主的で創造的な活動が出来る様なものという考えから野外活動と呼んでいます。

## 1期生 (1977年)

A団 (10月16日～19日) 3泊4日

蒜山→大山(登山)→鳥取砂丘

B団 (10月17日～20日)

鳥取砂丘→大山(登山)→蒜山

二団編成でA、B両団が大山ですれ違う様に行動。



## 2期生 (1978年)

A団 (10月4日～7日) 3泊4日

B団 (10月5日～8日)

C団 (10月6日～9日)

馬籠→御岳(登山)→上高地

三団が1日ずつ遅れて出発して行動。

## 3期生 (1979年)



10月2日～6日 4泊5日

白馬村瑞穂をベースキャンプとした活動

(1日目) クラス行動

(2日目) 登山(唐松岳、八方尾根、蓮華温泉)

(3日目) クラス行動

ベースキャンプ方式の本校の野外活動の原型となった。

## 4期生 (1980年)

1月20日～24日 4泊5日(車中1泊)

志賀高原蓮池スキー場

スキー講習を中心とした野外活動。

※この年は御岳方面に行く予定であったが御岳の噴火の為、スキーに変更となった。

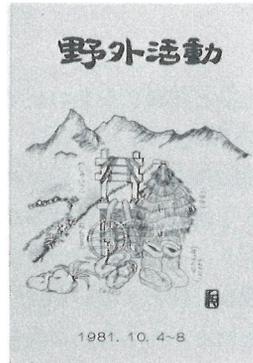


5期生 (1981年)

10月4日～8日 4泊5日

白馬ベースキャンプ方式

3期生と同じ形態であるが、ベースキャンプを飯森に変更。



6期生 (1982年)



9月30日～10月4日 4泊5日

立山(登山)→立山黒部アルペンルート  
→白馬(クラス行動)

立山では雄山→真砂岳→別山と、室堂の宿を出発して400名以上の生徒が縦走した。



7期生 (1983年)

10月1日～4日 3泊4日

白馬ベースキャンプ方式(飯森)

3期生、5期生と同形態。

8期生 (1984年)

1月16日～20日 4泊5日(車中1泊)

志賀高原高天原スキー場

スキー講習を中心とした活動。



9期生 (1985年)

9月28日～10月1日 3泊4日

白馬方面



学校祭／文化祭

学校祭というのは、文化祭と体育祭をあわせての呼び名です。3日連続の形式でもったのは、1978年（創立3年目）から82年までの5年間だけです。本校が出来てまず1年目は、まだ体育祭だけでした。石ころの多いグラウンドを教職員や生徒で整備しながらでした。翌年公開とまでいかなかったも、文化祭めいたものを何とかもちたいと真冬に、第1回文化祭を持ちました。体育館の竣工ようやくになったのです。そして3年目、ようやく完成校として1年から3年までそろいました。校舎もほとんど整備され、教職員も大幅に増えました。この年、はじめて、9月第3回体育祭、第2回文化祭を一括して第1回学校祭としたのでした。この年は不幸にも、文化祭が中断しました。劇「夕鶴」（1-3）の前評判が高く優勝かと思いましたが、表彰はなく幻となりました。原因は暴走族の来校によるものでした。公開か非公開か、その論議の一つのテーマでもあったわけですが、結局チケット制による制限付公開が続くことになりました。



泉鳥取 第8回 高等学校

# 文化祭

開催日 85'8.22  
85'8.23

- 第1回 青春の祭典
- 第2回 飛躍
- 第3回 自然田の未来のために
- 第4回 歩（あゆみ）
- 第5回 ALL YOU NEED IS LOVE
- 第6回 世界に広げよう友達の輪
- 第7回 Culture Festival
- 第8回 完全燃焼

## 完全燃焼

文化祭実行委員会

過去、全クラス参加とステージ（劇を重視）の流れの中で、「奇蹟の人」（第4回文化祭 3-3）や「熱中時代」（第5回 3-7）などが劇部門で優勝し、活躍しました。他に、大だこ、校舎のミニチュア、筑波博バビリオン、空港などの模型、人の数倍あるむね型のデコレーション、更に地歴部の「フィールドノート」や生物部の「バイオロジー」（部誌）そして吹奏楽の演奏は常に文化祭に華をそえました。全員で築きあげる文化祭。遊びの方向よりもデッカク、新しく、他にないものを何とか作っていきたいと思います。



## 学校祭／体育大会



体育祭は、今年（85年度）はじめてクラス対抗形式から団対抗形式に移りました。今まで、学級数が各学年ともバラバラで無理だったために、たいへん小さい単位での競争しか出来ませんでした。自分のクラスのレースも6レースやってようやく観戦できるという具合でしたが、今年は6団編成のたて割（たとえば、3年1・2組、2年1・2組、1年1・2組の6クラスで1団）で行うため



常に自分団のレースが見られます。応援も自然と熱気をおびてくるでしょう。できればはりぼてももっとふやし、事前の応援準備に時間をかけたいもの。行進時のクラス旗、プラカードなどは多様で、クラスの個性などが出てなかなかいいものです。校舎の上にかかる得点板、それを見つつ、同チームのシンボルカラーを追って力一杯、声を出し、手をたたき、体を動かしたものです。今年の文化祭のテーマが“完全燃焼”。体育祭もそれを受けついでやっていきたいものです。



## クラスマッチ

クラスマッチは別名球技大会。1年、バレーボール、2年バスケットボール、3年ハンドボール。だいたいゴールデンウィーク中に行っています。新しいクラスになって最初に親しくなるチャンス。ボールを追って学年毎に優勝を競いあいます。赤、緑、紺の体操服が活発に動きます。写真は上から'76年バレーボール、バスケットボール、4期生ハンドボールです。

▼バレーボール



▼バスケットボール



▼ハンドボール



## 校外学習

校外学習は、最初は年2回行なっていました。春はバス旅行、秋はクラス毎に散策など。学年全体で行った中では日ノ岬、奈良、嵐山、万博公園など印象的です。今は3年が就職試験をむかえるなどで、春だけの年もあります。しかし、野外に出て、飯盒炊さんをやったり、自然に触れたりするのはやはりいいものです。下の写真は、上から奈良（'79年）、二色ノ浜（'80年）、金剛山（'84年）での一コマ。



## 学校保健会

本校では、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の三師及びに本校教職員・生徒保健委員・PTA保健専門委員の参加で学校を取りまく保健・健康に関する諸問題を取り上げ発表、又講習会を開催しています。発表内容等は下記の通りです。

### 第1回学校保健会（昭和54年2月14日）

1. 本校生徒の現状（発育状況、疾病異状）
2. 傷害状況について
3. 照度調査及びアンケート

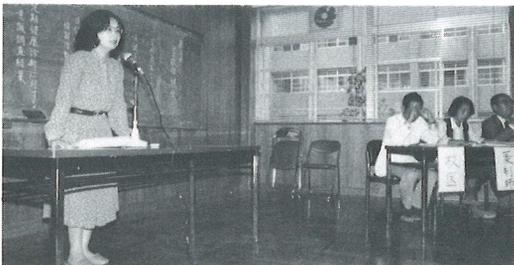


### 第2回学校保健会（昭和54年9月13日）

1. 本校生徒の現状（発育状況、疾病異状）
2. 発育と体力について
3. 救急処置について
4. スポーツ外傷について
5. 健康意識調査結果

### 第3回学校保健会（昭和55年10月8日）

1. 保健室の利用状況
2. 本校の傷害状況
3. スポーツ外傷について
4. 生徒保健委員会による情報活動とその効果
5. 定期健康診断に関する意識調査結果



### 第4回学校保健会（昭和56年11月19日）

1. 本校生徒の発育状況
2. 本校の傷害状況
3. スポーツ外傷について
4. 私たちの連結机
5. 子供の健康に対する意識調査結果



### 第5回学校保健会（昭和57年9月6日）

講演会「高校生の性について」

大阪府警察本部防犯部少年課

片桐キク警部補

### 第6回学校保健会（昭和58年11月16日）

1. 本校生徒の発育状況
2. 本校の保健室利用状況
3. 本校生徒の食事实態調査
4. 清涼飲料水 その色素と糖度について
5. 保護者の生徒の健康に対する意識調査

### 第7回学校保健会（昭和59年7月5日）

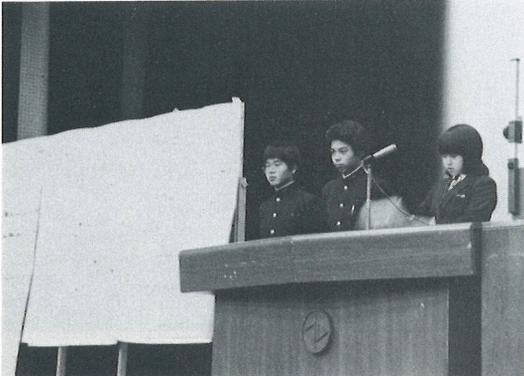
講演会「救急法の理論と実際」

大阪府立茨田高等学校 教諭

白附克彦先生

学校保健会の生徒保健会の発表の中より、大阪府立高等学校保健会研究大会に参加・発表。

○「創立4年目の学校における外傷について」  
昭和55年1月25日



○「私達と連結机」

昭和57年1月25日



○「清涼飲料水 その色素と糖度について」

昭和59年1月27日



## 講演会

「生きることの意味」

高 史明氏



高氏は御子息の自死（12才で飛び降り自殺）という余りにも大きな傷を糸口として、人間が生きていく時になにが大切であるかを話された。大切なのは富でも名誉でも地位でもなく、「いのち」であった。「いのち」の大切さを知り「いのち」を大切にしていけることが生きるの意味であり、それは人のやさしさを探求していく歩みであったと話された。

「止陽学園のとりくみを通じて」

福井 達雨氏



福井達雨氏は重い知恵遅れの子とかかわってこられた。重度の障害を背負った子供達は私たちが見えなくなっていることを教えてくれる。「目に見えるものより、見えないもの」を見つめて生きてほしい。自分を他の人の立場におきかえて考えていくことの大切さを力強く説かれた。

## 演劇鑑賞

自治会活動の一つとして、演劇鑑賞も取り組んでいます。過去、「大阪城の虎」や「11匹の猫」そしてわらび座公演などを持ちました。劇を十分に味わって楽しむことを目的としていますが、学校体育館の設備面、1500人近くの生徒数など、ゆとりをもって行なうことは、かなりむずかしいものです。しかし、これらの劇を通して、「文化祭の劇をやってみよう」とか、また「他の劇も見たいなあ」となれば幸いです。

## 大阪城の虎

## ●スタッフ

作 かたおかしろう  
 演出 道井直次  
 装置 阪本芽伸  
 音楽 本田周司  
 舞踊 花柳寿魁

## ●登場人物

リ キ (餌取の犬) 得八 (リキの飼主)  
 ハ チ (魚屋の犬) 小西行長の侍大将  
 ク マ (大工の犬) " 兵卒  
 チ ン (御寮はんの犬) 加藤清正の侍大将  
 ギ ギ (逃散してきた犬) " 兵卒  
 おギン (放浪犬) 進 行 役



## ●ものがたり

むかしむかし 大阪の天満の町のそのあたり  
 かたりつたわる話し草  
 名犬リキの物語り 名犬リキの物語り

時は戦国統一し 日の出の太閤が うぬぼれのぼせた  
 そのあげく 朝鮮侵略大戦さ  
 おかげで 人々大弱り 人夫 徴発 軍役と かりた  
 てられたその時代 天満の町を背景に 演じます狂  
 言は 新版太閤記・大阪城の虎  
 まずは ごゆるり そのため口上 東西 東西ー

文禄元年の夏、当世流で申しますと一五九二年のこと、太閤秀吉は、朝鮮国に兵を進めたのでございます。しかし、諸戦の勝利もつかの間、軍は馴れない山岳戦で散々の負けいくさ。

その上、第一軍の小西行長と、第二軍の加藤清正は内部分裂をかもし出しました。ここにいたって、秀吉はついに軍を引かざるを得なかったのであります。

## 自治会活動

自治会活動は、活発な時期もあり、そうでない時期もありました。生徒会役員立候補が一つのポストに3人も出て当選のためにはなばない選挙活動があったのも思い出されます。HR運営委員・代議員・文化委員・体育委員会が毎週のように行なわれていた時期もあります。自治会活動は、生徒がイキイキしているか否かのバロメーターです。

自治会執行部会議、自治会合宿など、担当する



生徒同士が充分に話しあい、確認しあって、行事に取り組めた時は、なかなかいい出来ばえだったと思います。執行部に入って知る初めての経験——壇上に立ったり全校生配布のビラをつくったり、そしていろいろな企画を行ったり一

4

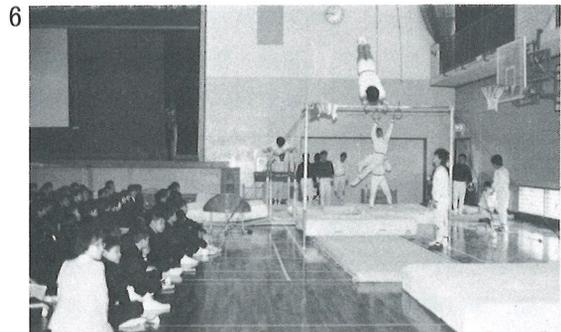
5

事のもの多し。それでも、今までの執行部の人は、なんとかこなしてきました。更に飛躍する意味で、生徒の声をより反映した自治会を期待します。



写真は

- ①1981年、役員選挙立会演説会
- ②1979年、2・3期の新旧執行部合宿
- ③1985年、息のあった執行部のコンビ
- ④1978年、ホームルーム運営委員会
- ⑤1980年、学校祭の立看板作り
- ⑥1984年、新入生歓迎会、クラブ紹介



教務部—情報処理教育の実施について

本校では昭和60年度より、大阪府の情報処理教育指定校として、パーソナルコンピュータを25台設置して1年と3年を対象に「情報処理Ⅰ」を開講しています。これは、今日の高度情報化社会の中で、本校の特色の一つとなることや、就職希望者の多い本校では生徒の就職に有利であるとの判断により導入いたしました。1, 3年共に選択授業で、生徒の受講希望者は1年生(92名) 3年生(250名)ありコンピュータの台数その他の制限により、残念ながら希望者全員を受け入れることができず下記のような人数で実施しています。既に一学期を終えた段階ですが生徒の反応としては、予想以上に意欲的に学習しており、例えば2時間連続授業の際に、途中10分の休憩が入るのですが休憩せずに学習を続ける生徒がたくさんおります。そのために授業計画も予定通りすすんでいる状態です。又、「情報処理Ⅰ」の科目だけでなく、一般科目の「政治経済」や「美術」の授業でも25台のコンピュータを使って授業(CAI)を行っています。今後さらに他の科目でもコンピュータを使った授業が増えていくことでしょう。情報処理教育は、本校ではまだ始まったばかりですが現在のところ順調に進んでおり、さらに発展していくように努力していきたいと考えています。

(1)S. 60年度「情報処理Ⅰ」(商業)

3年 男子45名 女子105名 合計150名

	A	B	C	D	計
男子	0	16	17	12	45
女子	38	22	21	24	105
計	38	38	38	36	150



※ 3時間の内、2時間は連続(講義1h、実習2hを原則)

1年 男子12名、女子29名、合計41名

(2)年間授業計画

1 学 期	前期	パソコンに慣れる。(キー操作を覚える)
	中期	ディスクを自由に使う。 グラフィック命令で絵を書く。プログラムを作る面白さを知る。
	後期	BASICの基本命令を習う。
2 学 期	前期	BASICの基本命令を習う。
	中期	BASICの基本命令を習う。
	後期	ワープロ講習、LOGO簡易言語
3 学 期	課題プログラム	

## 生徒指導部

### 本年度の達成目標

- (1)実践を通して明るく健全な校風を培う。
  - (2)遅刻・怠学生徒をなくす。
  - (3)喫煙・暴力行為・性的非行の予防。
- 機会あるごとに、明るく健全な校風を作るのは誰かを問いかけ、保護者には学級懇談・家庭訪問・PTA新聞・学校新聞・学級通信により連繫をとり、学校と家庭が一体となって課題の達成をめざす。
- 生徒の登校時に、校門に教員を配し不注意による遅刻の防止と生活指導上の諸注意の徹底をはかる。  
欠席する時は事前に必ず保護者より学級担任へ連絡をとることを徹底し、やむをえぬ遅刻については事前の連絡と、連絡票の発行による校内処理を行う。  
無届の早退は認めない。
- “3ない運動”の主旨を、生徒及び保護者によく理解させるとともに、運転免許取得は届出制とする。

### 本校の単車指導の経過

昭51～54年11月 ・単車通学禁止。

昭54年11月～55年4月

- ・免許証取得届出制と誓約書の提出。
- ・単車通学特別許可制度。

昭55年4月～60年4月

- ・免許証取得の届出制を許可制に変える。

昭和60年4月～

- ・原付、自動2輪を届出制に変え免許証保有者の実態把握に基づき、安全指導を実施。

図書部

開校された当初、図書館は現在の3分の1の広さで蔵書数も少なく閲覧・貸出のできる状態ではなかった。当時より、図書館は職員室に転用されて現在に至っており、構造上は図書館らしくないが、年度を経るに従って蔵書数・利用数も増え、読書会や読書感想文コンクール等の行事ができるようになってきた。



▲昼休みの閲覧風景

図書館の主な行事

行 事	回数	月
オリエンテーション	1	4月
読書感想文コンクール	1	9月
読 書 会	6	5・6・9・ 11・1・2月
図 書 館 報 発 行	2	10・2月
図 書 館 通 信 発 行	14	7・12月、他
特設コーナー展示	6	4・5・6・ 10・12・1月

蔵書冊数の推移

年度	蔵書冊数	PTA他の 寄贈図書
51	208	38
52	1857	206
53	2580	0
54	2943	0
55	3487	506
56	4088	113
57	4743	34
58	5640	195
59	6780	351

貸出状況の推移

年度	貸出冊数
51	0
52	442
53	847
54	918
55	633
56	570
57	784
58	637
59	521



▲昼休みの閲覧風景



▲読書会 昭和60年

## 進路指導部

本校は真に豊かな人間教育を目標とする。そのうえで、進路保障は高校教育の責務であると考え。多様な生徒・父母の願いに答え、個性豊かな人間を育てるため、組織と指導体制の充実を図るうちに10年目を迎えた。進路指導部は初年度に発足したが、進路保障の観点から、53年には進路推進委員会をつくり、とりわけ就職について、統一応募書類の理解や学校推薦の基準や手順に関する原則を全校的に確認した。

卒業生（1～7期）の進路状況は、開校初期に比べて就職希望者が増加し、現在、進学（大学・短大・専修学校）と就職の比は3対7程度になっている。本校が普通課程の高校であるにもかかわらず就職希望者が多いのは、生徒の学力実態と地域の特殊性に原因があると考えられる。それ故、大阪府教育委員会には学校規模の縮少を訴えるとともに、職業安定所との連携を密にし、学校独自の取り組みとして、53年度から、毎年1学期中頃に、全教員による200～300社の企業訪問を行い、求人開拓を行っている。

進路選択は、生徒の自由な意志と責任においてなされる。そのために、進路指導部と学級担任が一体となり計画的に進路指導を推進している。

第一に、教育課程において進路に応じた学習を考慮し、第3学年では大幅に選択科目を採用してきた。また、58年度から、第3学年は進学・就職希望者に分けた進路別クラス編成を行い、指導の効率を高め、生徒が目標に集中しやすいようにしている。

第二に、各学年とも、毎学期、学級懇談週間を設けて生徒・父母の進路に対する願いを実現するために、家庭と学校の生活の点検を行い、指導助言をしている。

第三に、「進路の手引き」を渡し、進路学習の意義を理解させ、進学と就職のために3年間に取り組むべきことを示し、手引は進路説明会やホームルームで活用されている。

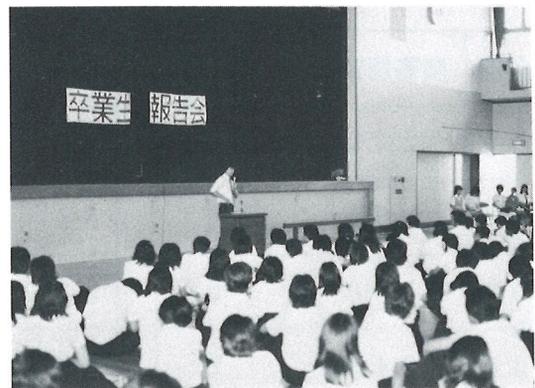
第四に、進路に応じた学力保障のため、日常お

よび長期休暇中に、基礎学力向上の補習、進学に対処するための講習を行っている。

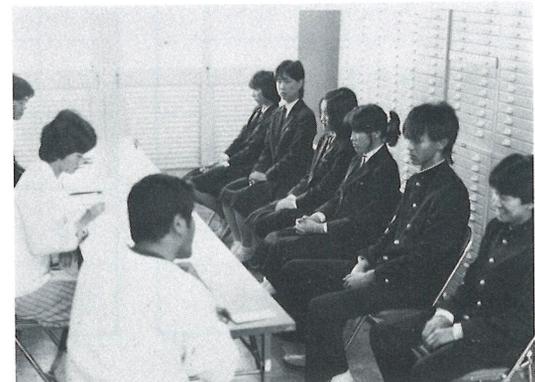
第五に、労働観や社会性を深めさせる一環として、1年で「親の労働聞き書き」、2年で「自分の将来について」という作文を書かせる。また、3年では就職差別をなくすために「近畿統一用紙」をテーマとして、ホームルームにおける進路学習を展開している。



▲1983年 2年進学希望者集会



▲1981年 卒業生報告会



▲1985年 就職模擬面接

## ひとりひとりが大切にされる 教育をめざして

### 同和教育推進委員会

#### 学力と進路の保障

「非行」と「低学力」を克服する。このことが、創立以来10年間、泉鳥取高校の同和教育の柱のひとつでした。生徒を学校の中の姿だけでとらえても何もわかりません。生徒が社会や家庭の中でつきつけられている生活の現実を見つめ、そこから問題解決の展望を見い出して行くというのが、私たちの「非行」と「低学力」に取り組む基本的な視点です。そのために繰り返しての家庭訪問、わかりやすい授業の工夫、そして仲間の力によって「非行」「低学力」を克服するクラスづくりなどが取り組まれてきました。それでもなお多くの生徒が学業半ばにして本校を去って行った現実を私たちは肝に銘じておかなければならないと思います。

本校の同和教育のもうひとつの柱は進路を保障してゆくことです。新入生は泉鳥取高校に入学すると「親の労働聞き書き」の作文を書くこととなります。これは一期生以来ずっと続けられてきました。この作文は親（またはそれに代わる人）から自らの労働生活を語ってもらう中で、生徒に親の生きている姿から学ばせるといふものです。多くの生徒が親の必死に生きている姿に感動し、それを正直に書き表わします。この思いを2年生の作文「自分の将来について」、3年生の「近畿統一用紙」のホームルームへとつなげ、自分の進路を考えさせることに目標があります。

#### 人権教育を徹底するために

しかし、生徒が本校を卒業して飛び出して行く社会は、残念ながらさまざまな差別が根強く残っています。そのため自分の人権を守るため、他人の人権を犯さないため、部落差別、在日朝鮮人差別、「障害者」差別などさまざまな差別の実態や、それと闘う姿勢を正しく学んでゆく必要があります。

す。本校ではこれらの学習を抽象的な道德教育の時間としないために、教科の学習の中に位置づけてきました。また人権教育の学校行事として、高史明氏をはじめとする講師を招いての講演や、在日朝鮮人のロック歌手洪英雄のコンサート、「明子の愛、そして」などの映画会で生徒、教職員、PTAともに学ぶことができました。

#### 差別発言に対する取り組みで教えられたこと

差別発言に対する取り組みで教えられたこと

そんな取り組みの中で、創立7年目、本校で生徒の被差別部落に対する差別発言が連続して出てきました。このことで私たちは本校の同和教育の不充分さを痛感させられ、さまざまな事を教えられました。学校や社会でのコンプレックスが生徒に差別発言をさせたこと。行事や人権学習での中途半端な取り組みは生徒に断片的・差別的な知識をばらまく結果に終ること。「自分は差別とは関係ない」「差別される人はかわいそうや」といった誤った考えが学校の中に満ちていることなどです。この発言を契機として、同和教育を再検討する中で、この事件の教材化、3年間の人権学習の系統化などの試みがおこなわれながら今日に至っています。

#### ひとりひとりを大切に

同和教育というと「部落の子だけを大切にする教育」といった偏見で見られがちです。しかし同和教育が目標としているのはひとりひとりの生徒が大切にされる学校です。そのためにも部落差別をはじめとするあらゆる非人間的な差別と闘ってゆく、闘ってゆける生徒を育てるということです。大規模な学校のため、同じ学年でもお互い顔を知らない生徒もいます。就職希望者があまりにも多過ぎるために進路指導の困難点もあります。しかし、私たち教職員が創立以来10年間変わらずに目指しているのは、ひとりひとりが大切にされる差別のない学校をつくるということです。

## 10学級への願い



▲合格発表

## —新設校づくりにかける熱意— 1年目

泉鳥取高校は素人ばかりで作りはじめた学校であった。校長も教頭もなりたて、学校づくりの中心になった教員たちも、ほとんどみなはじめての経験であった。それだけに、「みんなで創る学校にしよう」という合ことばのもとに、すべて一から話しあったといってよい。しかも、採決はしない。全員の意見が一致するまで話しあう姿勢を1年間崩さなかった。高校義務化の主旨によって設立されたことの確認。地元の熱烈な要望によって設立されたので地域に根ざした高校にすること。したがって、エリートだけを養成するような教育でなく、同和教育の観点をすべての教育活動の根幹に置こう。理想を押しつけるのではなく、生徒のありのままの姿を知ることから出発しよう。そのためには生徒を学校での姿だけで判断するのではなく、家庭や地域社会との関わりで見よう。だから家庭訪問をしよう。保護者との懇談をしっかりやろう。生徒をバラバラにしないで、集団の中に位置づけて育てよう。そのためには行事に積極的に取り組もう。生活指導、学習指導はきびしく、その代り、われわれ教員集団の姿勢もきびし

くしよう等々。毎日、夜遅くまで議論しあった。地元の小学校の先生から「定時制もあるのですか」と聞かれたほどであった。



▲学校祭・クラスの取り組み

## —2人の教員が倒れたのはなぜか— 3年目

ガンバツテ、ガンバツテ3年目を迎えた。教員の年齢構成は66人中40才代3人、20代49人であった。5月に、その若い先生の中から、2人が倒れた。このままだと次々に病人が出る。そんな危機感が職場に広がった。なぜだろう。みんなで本気になって考えた。教員層が若いからか。それもあ。しかし、それは根本的な問題ではない。わたし達の考えた結論はこうだ。それはまず何といっても学校規模の大きさである。当初、大阪最南端の地に設立されるこの学校の規模は8学級とされていた。ところが、準備は9学級で進められ、最終段階では10学級に増やされていた。それからは、12学級で、3年目は34学級のマンモス高校になっていた。初年度、教職員と生徒がお互いによく知りあい、協力してすすめてきた新設校づくりが、1500人の生徒を擁するマンモス校では、学年が違えばまるで他人のような現実の前に、スムーズに運ばなくなってきたのだ。いろんな矛盾の生じるなか、若い教職員集団は一丸となって日々の教育

に打ち込んだ。けれども、学校規模が大きすぎる。ひとりひとりの生徒を大切にする、いきとどいた教育をするためには生徒数が多すぎて、教員数が少なすぎる。(条例では規模の小さい学校ほど割合として教員数が多い)、また教育活動を充分に行なうための予算の裏付けが大きく不足している。当時どれだけ私たちがガンバッテいたかの資料がある。教頭が府教委に提出するために調査した「勤務時間外に及ぶ教員の活動の実態」(昭和53年4月～6月30日現在)である。



▲体育館での全校集会

——なぜ10学級の要求になったか——

それによると学年会議・各分掌会議・各教科会議・クラブ活動・保護者懇談・生徒指導・家庭訪問・企業訪問・行事準備・進路指導・講習・補習等々で合計1085回、延人数2814人である。時間にすればとてつもない数字が出てくる筈である。けれども学校規模・教員数・予算の問題は内部努力(それをわたし達はガンバリズムと呼んだ)ではどうにもできない問題である。それは行政の責任に負うところが多い。マンモス校化による諸矛盾(中退生徒・落ちこぼれていく生徒・問題を起こす生徒、それに伴う教職員——教員も職員も——の多忙さ・しんどさ)はサボル方向や手を抜いて

ごまかすことによって解決できない。

だからそんなことはできない。しかし内部努力はもう限界である。このまま放っておけば、来年は36学級にもなって矛盾はもっと深まる。何とかしなければ……の危機感とあせりが、府教委に対する10学級の要求と教員増と予算増とを願う要望書となっていった。組合だけの要求でなく、教職員全員の議決による、教職員一同の名による要望書であった。1学年で12学級は多すぎる。こんな地理的条件の悪い学校では、最大で10学級だという切なる願いであった。泉鳥取の教育の火を消すな！ その代り10学級を要求しよう。これが当時の合言葉であった。



▲卒業式

——そして今36学級のマンモス校になって——

10周年を迎えた今年、いよいよ恐れていた36学級のマンモス校になった。わたし達の要求は実現されず、色々の場で自腹を切りつつ教育活動に励む実態は変わらない。今も泉鳥取の教職員はガンバッテいる。教育条件の裏打ちを切に求めるところである。

## 第1回PTA総会開催される

昭和51年5月17日、第1回PTA総会が開催された。この総会でPTA規約が承認され、同時に初代役員が選出され、企画、進路、生活指導、保健、広報の委員会がつけられた。出席者は保護者約100名、教職員25名でグラウンドの整備、バスの回数をふやすことなどに活発な意見がかわされている。8月には1年生全員を対象にした夏期宿泊訓練が行われ、11月には親の労働から学び、自分の生きる道を考えていく「親の労働聞き書き」が保護者の協力で行われた。昭和52年のPTA総会で各学年ごとに学年委員長を1名ずつ選出しPTA活動の強化がはかられた。また学校管理下で生徒の災害事故が生じた場合に見舞金を送るPTA安全互助会が発足している。10月には2年生の野外活動が大山・蒜山高原で行われた。11月には第1回体育祭、翌年の昭和53年1月には第1回文化祭が開かれている。5月にはPTA総会がもたれ、来春、初めて卒業生を送り出すにあたって進路について活発な意見が交換された。7月には1年生の夏期宿泊訓練が鳥取県東浜海水浴場で、10月には2年生の野外活動が長野県の御岳・上高地で実施された。11月の文化祭にはPTA懇談会がもたれ、PTAによる生徒の生活・学習に関するアンケート調査の結果、概して健全である旨が報告されている。昭和54年1月には校歌がつくられる。秋には保護者を対象とした「進学について」「就職と人生」というテーマで講演会がもたれ講演内容はPTA新聞臨時号で詳しく報告された。昭和55年、PTA活動も4年目に入り、講演会・学年別懇談会・研修見学会（関西電力多奈川発電所・花王石鹼）も軌道に乗り始めた。

## 第9学区PTA協議会幹事校

昭和56年、第9学区PTA協議会の幹事校となった。仕事がふえることが予想されたので、PT

A規約を改正し、副会長を2名から3名に増員した。幹事校として研修見学会を計画し、6月には和歌山の住友金属工業株式会社、11月には熊取町の中家住宅と降井家書院を見学した。10月のPTA研修見学会は大阪造幣局と朝日放送であった。朝日放送の「プラスα」の見学が人気ををよび、参加者はバス1台では乗り切れず、副会長の自家用車を出してもらったのは、うれしい思い出となった。昭和57年10月のPTA実行委員会で学校の水が「まずい」ことが話題になり、津田薬剤師が水質検査を行った。結果は飲料水として「適」と出た。また白い附着物、薬くさい水については阪南町役場の説明で地下からくみあげ淀川の水道水にまぜている水に問題があることがわかった。生徒の部落差別と在日韓国・朝鮮人差別が問題になり、PTA会員も研修しようということになった。差別と人権に関するPTA主催の映画会・講演会がもたれたのは昭和57年からである。

## PTA新聞の名称「つばさ」となる

昭和58年7月、PTA新聞の名称がPTA会員の応募の中から「つばさ」と決定した。「つばさ」には泉鳥取高校の校章の鳥の飛ぶ姿に飛躍と発展を願う気持ちがこめられている。昭和58年のPTA新聞33号から「つばさ」という名称になった。昭和59年、性の問題および重い知恵おくれの子供から見た現在の社会と教育を考える講演会がもたれた。今年は創立10周年を迎えPTA活動も一つの節目の時期である。保護者・教職員は総会、役員会、実行委員会で時には激しく議論したこともあった。しかし、たいていは静かな討論の中から結論を探し実行できることを生み出そうと努めてきた。なごやかな雰囲気でも、しかも学ぶことの多い活動が多かった。それは生徒の学習環境と条件をよりよくしていきたいという点で保護者と教職員がまとまってきた賜であった。この遺産を受けつぎ、次の10年で「つばさ」がさらに飛翔していくことを願ってやまない。



▲PTA総会



▲PTA講演会



▲研修見学会 京都「寺田屋」



▲研修見学会「適塾」

## 歴代PTA役員・実行委員

役員・委員	年度	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
会 長		根来 正男	根来 正男	根来 正男	藤原 史郎	土生 勝昭	奥野 清人	野田 政春	田嶋 幸雄	吉居清八郎	土生 貞雄
副 会 長		茂野 尚之 浦川美代子	藤原 史郎 浦川美代子	藤原 史郎 浦川美代子	土生 勝昭 小藤 香代	梶本 景弘 彦野 洋子	彦野 洋子 井田 稔 野田 政春	坂口 寿昭 和夫 幸雄	七良浴増吉 黒川 宣代 吉居清八郎	土生 貞雄 眞柄 和夫 灰野 明美	栗山 久美 眞柄 倉津 倉津 国雄
書 記		田阪俊一郎 市村 昌三	小藤 香代 安西 均	小藤 香代 岸本 章嗣	梶本 景弘 小西 紀満	奥野 清人 中村 二郎	坂口 寿昭 梅川 邦夫	七良浴増吉 梅川 邦夫	狩野 憲一 梅川 邦夫	小川 典子 梅川 邦夫	栗満 永子 梅川 邦夫
会 計		歌坂 伸英 播本 次男	岩尾 播本 将雄 次男	土生 勝昭 播本 次男	大野 なつ子 次男 播本	若野 貞子 播本 次男	南谷 光代 次男 播本	黒川 幸勇 播本 次男	東 千里 次男 播本	草竹 玲子 次男 播本	根来 敏子 播本 次男
会 計 監 査		矢倉 明広 若松 良彦	矢倉 明広 若松 良彦	矢倉 明広 大野 なつ子	奥野 清人 若野 貞子	井田 稔 野田 政春	若野 貞子 田嶋 幸雄	中原 昭己 東 千里	伊織 啓子 土生 貞雄	栗山 久美 栗満 永子	曙谷 秀子 水嶋 育子
1 学 年 委 員 長			田端 禎二	梶本 景弘	彦野 洋子	南谷 光代	新甚 栄子	吉居清八郎	今坂 良純	倉津 国雄	園田 昌子
2 学 年 委 員 長			広田サヨ子	田端 禎二	永井 靖子	奥野美代子	水本美和子	新甚 栄子	灰野 明美	甲斐キミ子	貴田 将子
3 学 年 委 員 長				関 利夫	井田 隆	永井 靖子	小藤 香代	水本美和子	畑中 悦子	東 千里	甲斐キミ子
企 画 委 員 長		高 三郎	政 健一	柚田 清子	池下 義孝	坂口 寿昭	林 展子	和田 房子	中島 豊子	阪下 昇造	佐藤 省三
企 画 副 委 員 長		勝野 哲雄	下中村徳春	徳永 英士	二神 怜子	林 展子	和田 房子	伊織 啓子	阪下 昇造	貴田 将子	伊奥部紗智子
生 活 指 導 委 員 長		江口マリ子	谷下 宗平	井田 隆	来住 輝彦	浜野洋太郎	眞柄 和夫	狩野 憲一	二神 怜子	吉田 正男	久堀美代子
生 活 指 導 副 委 員 長		久堀千代子	上田 利春	本山 和紀	井田 隆	宮崎 京子	宮崎 京子	灰野 明美	小田智恵子	栗山 久美	眞鍋美津子
進 路 委 員 長		田端 禎二	末田 充子	三浦徳太郎	片岡智恵子	土手 富子	土海 礼子	大原ミチ子	栗山 久美	櫻葉 常一	森本 敏子
進 路 副 委 員 長		中谷寿美恵	米山 宏	南 松夫	高比良忠良	南 シスカ	日高 香子	畑中 辰男	北田恵美子	二神 怜子	吉河亜輝子
保 健 委 員 長		本山 和紀	坂本 広次	樋口 博夫	小山 捨二	水本美和子	佐藤 和子	佐藤 和子	甲斐キミ子	根来 敏子	恵崎 信子
保 健 副 委 員 長		芝野喜美代	寺本 桂子	下中村徳梅	伊奥部紗智子	増田 照子	小島 静子	上 富美子	中澤チエノ	浦田 和子	張 鴻志
広 報 委 員 長		三浦ハツ子	三浦ハツ子	森光 愛子	奥野美代子	吉岡 清子	吉岡 清子	高木 静代	宮川 好美	神宿内和子	西尾 豊子
広 報 副 委 員 長		柚田 清子	樋口 博夫	南谷 光代	浜本多美子	小泉隼久子	堀井 久枝	幸山美知恵	小川 都	水嶋 育子	井手由利子

# 同窓会のあゆみ

## 同窓会の発足と総会

昭和54年3月同窓会規約がつくられ、第1期生の同窓会入会と同時に同窓会は発足した。その後総会は毎年5月の第2日曜日に開催されてきた。会場は初めの頃は視聴覚教室を使用していたが、天気の良い日はレンガ敷きの中庭で開いたこともある。この3年間は食堂で総会を開催し、総会終了後ただちに同じ食堂で懇親会にはいつている。毎年3月下旬から役員が集まり、総会の原案を作り、役員会、常任幹事会を開き総会の準備にとりかかる。頭を痛めるのは決算と予算案の作成、懇親会のアトラクションと記念品の決定である。総会の参加者は多い時で200人を越えたが、最近では100名前後である。例年その年に卒業した同窓生の参加が最も多いが1・2・3期生の中には毎年顔をを出してくれる常連がおられ、心強い限りである。寿司・サンドイッチ・お茶・ジュースで旧知旧交をあたため、同窓生の活躍ぶり、誰と誰が結婚したというホットなニュースに刺激を受け励まされて散会していく。



▲総会

▲懇談会

## 中吉鉄治氏のこと

昭和56年6月、同窓会の会計をやってこられた中吉鉄治氏が不慮の事故のためなくなられた。中吉氏は在学中、クラブ活動、自治会活動に積極的に

参加され、卒業後は同窓会会計として2年余り、わが身をおしまれず、同窓会の柱として活躍された。汗を流し懇親会場へ机を運んでおられた氏の姿が思い出される。同窓会と母校の発展のため労をおしまれず働いてこられた中吉氏のご冥福をお祈りしたい。

## 同窓会名簿発行

昭和60年、母校は創立10周年を迎えた。同窓会では創立10周年を記念して同窓会名簿を作成した。名簿の作成は業者に依頼したものの細かな仕事、問い合わせが思いのほか多く、役員と同窓会の係の先生の協力で、ようやく発行にこぎつけた。会員諸氏の希望、問い合わせに十分応じ切れなかったことに対して、心からお詫び申し上げたい。次の創立20周年にむけては同窓会事務局の設置が必要と思われる。

## 同窓会発展のために

母校の桜や桜は毎年確実に年輪を重ね、地にしっかりと根を張りつつある。同窓会の会員も年々ふえ、会員数はすでに3000名をこえた。会員諸氏は泉州を中心に地道に活躍されている。同窓会は同窓会および母校の発展のために、やらなければならないことが山積している。同窓会新聞の定期的発行と配布、会員相互の連絡と声をどう引き出していくか、クラブ後援会の設置、さらに先のことになるが同窓会館の建設など、これからの同窓会の仕事は多い。役員も常任幹事もそれぞれ仕事を持ち、動きにくい事情はあるが、会員の方々と母校の教職員の皆様の良きご指導とご協力をお願いし、創立20周年にむけて、さらに着実に歩み続けたい。

歴代同窓会役員・幹事

役員・幹事	年度	54	55	56	57	58	59	60
会 長		許斐 雅文	許斐 雅文	許斐 雅文	井上 純男	井上 純男	井上 純男	井上 純男
副 会 長		須崎 孝	須崎 孝	須崎 孝	松野 保之	松野 保之	松野 保之	松野 保之
書 記		末田みどり	末田みどり	末田みどり	小西 一代	小西 一代	小西 一代	小西 一代
会 計		中吉 鉄治	中吉 鉄治	中吉 鉄治	星 直樹	星 直樹	星 直樹	星 直樹
会 計 監 査		三浦 誠吏	三浦 誠吏	三浦 誠吏	桂 徹	桂 徹	桂 徹	桂 徹
		天形 郡子	天形 郡子	天形 郡子	藤田 満	藤田 満	藤田 満	藤田 満
常 任 幹 事		高田谷武志	片岡 清司	柴田 茂	伊興部浩人	南谷 達也	黒川 博史	甲村 英樹
		高松 祐子	長谷川睦子	山登 晴美	小西 一代	浜口 和子	明賀 篤子	菊川 文枝

●鳥取の地名の由来

▶波太神社



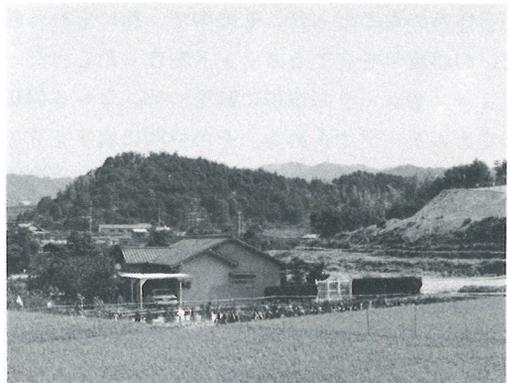
阪南町域に関するつぎの伝承は『日本書紀』『古事記』の垂仁天皇条に登場する。『日本書紀』は、次のように記している。垂仁天皇の第一皇子はむつわけのみこと菅津別王は、三十歳になっても物を言わなかったが、垂仁天皇二十三年十月、大殿の前に天皇と皇子が立っていた時、鶴くぐひ（白鳥）が空を飛んだのを見て、皇子は「これ何物ぞ」と言った。皇子が物を言ったのを知って天皇は大いに喜び、「誰かこの鳥をとらえよ」と仰せられた。そこで天湯河板あめのゆかわた挙なが「臣が必ずとらえましょう」と奏上し、天皇は「汝がこの鳥を献上したなら、必ずあつく賞しよう」と仰せられた。湯河板挙は遠く出雲にいたって、この白鳥をとらえた。あるいは但馬国でとらえた、ともいう。皇子は、この白鳥をもてあそんで、遂に物を言うことができた。天皇は湯河板挙に鳥取造とりのみやつこの姓を賜ってあつく賞し、また鳥取部とりかいべ・鳥養部はむつべ・菅津部を定めた。

『古事記』の伝承は、これよりやや複雑である。はむつわけのみこと品牟都和気命（本牟智和気命）は長い間物を言わなかった。ところがある時、空高く飛ぶ鶴くぐひ（白鳥）をみて、初めて片言をいった。そこで山辺やまのへの大鶴おおたかに、その鳥をとらえさせた。大鶴は、紀伊・播磨・因幡しん・丹波・但馬・近江・美濃・尾張と白鳥を追い、越国の和那美の水門でようやくとらえて献上した。ところが、その鳥を見れば皇子は物を言うど期待されたのに、思いどおりには言わなかった。そこでうらないをしたところ、出雲の大神の崇であることがわかり、曙立王あけたつ・菟上王うなかみの二人を皇子にそえて出雲に遣し、大神をおがんで、つい

に物を言うことができた。天皇はこの皇子に因ととりへって、鳥取部とりかいべ・鳥甘部ほむじへ・品遅部おおゆえ・大湯坐わかゆえ・若湯生を作った。

以上の『古事記』『日本書紀』の伝承には、阪南町域は直接には関係しないが、こうした伝承をもつ鳥取部の一つが町域内にもおかれたことが、「鳥取」の地名を今に伝える起源をなすものと考えられ、その意味で阪南町にも関係の深い伝承といえるわけである。

（「阪南町史」より）

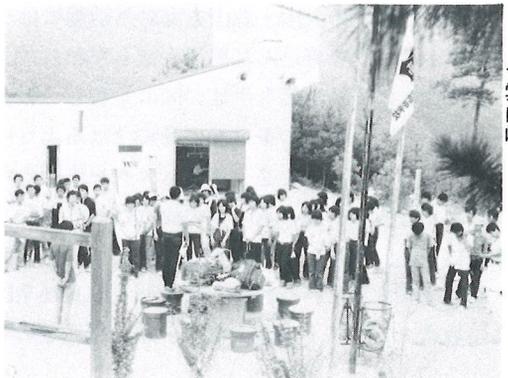


◀玉田山古墳

●第1回夏期宿泊訓練



一期生の初めての夏休みに、何班かに分かれ、紀伊駅から雲山峰を越えて、学校まで歩く野外訓練があった。期間中のある日、ものすごい雷雨があり、時間的にみて、尾根を歩いているところであった。学校から電話があり万一にそなえて出校を要請された。低い山のことであるし、学校からも近いので、めったなことはな



◀雲山峰

# 10年史アラカルト

いと思いつつも、不安はあった。全身ズブヌレになりながらも全員元気で帰校してきたときは感激した。その時、参加されていた先生や生徒は、今もって深い印象としてのこっていることと思います。

友田隆三先生（現府立泉南高校）の話

## ●草創期の苦勞

本校が開校された頃は何もなかった。あるのは校舎のみで、グラウンドは石ころだらけ穴ぼこだらけだった。当然、体育祭で使う器具も全然なく全部手作りのものだった。その中で、特に忘れられないのが旗竿を立てるスタンドを作ったことだ。ジュースやコーラの空缶に砂をつめ、3～4個集めてガムテープで止める。その空間に旗竿を立てる。発想は素晴らしいものと思ったが、実際実行してみるとまず大変なのは空缶集めだった。車に乗って自動販売機コーナーへ行ってゴミ箱の中の空缶をあさる。なかには飲み残して腐りかけのものやゴキブリなど非常に汚なく臭い。やっと出て来たとき、バス停で待っている人々がこちら側をじっと見詰めていた。その時の気持ちは今でも鮮明に思い出す。「なんで泉鳥取高校の教師になったんやろか」と……（N）

## ●野外活動のこと

本校では開校当初より、従来の修学旅行形式の旅行をやめ、ベースキャンプ方式の野外活動を実施してきた。「大阪では経験できぬ大自然と土地の人々に接し、集団生活を通して、多くのことを学ぼう」というのがその目的である。最初はこの「野外活動」という名称にとまどいを感じる生徒もいて、1期生の大山・蒜山方面野外活動には三つ揃いのスーツを着込んだ男子生徒も現われた。

その後この野外活動も生徒の間に定着し、服装も山にふさわしいものを自然に身につけるようになっていったが、ここ2、3年はスキー旅行の希望が増えてきているのも時代の流れだろう。

## ●野口さん、見事！ 全国大会に進出

昭和58年8月に行なわれた第30回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に、本校放送部の野

口さん（6期生）が大阪府代表の1人として出場した。野口さんが選んで朗読した作品は田宮虎彦の「足摺岬」。毎日「アエイウエオアオ」「カケキクケココ」などと発声練習を積んだことが実を結び、この快挙となった。なお、この全国大会では、第1次審査通過も無理とみた野口さんは、帰り仕度をし、荷物を東京駅に預けてから発表を見に行ったところ、第1次審査を通過していたため、あわてて荷物を取り寄せ、もう1泊したといううれしい誤算もあったようだ。

## ●生徒中国派遣団員として宇都君中国へ

「大阪府と上海市並びに江蘇省との友好交流の一環として、府内の高校生に中国を親善訪問させ、中国の高校生との交歓をはじめ、ひろく中国の自然、社会、歴史、文化に接して中国への理解を深め、友好を促進し、ひいては国際理解の学習に資する」という目的で高等学校及び養護教育諸学校（高校部）に在籍する大阪府在住の生徒100名が、中国派遣団員として昭和57年7月29日から8月4日まで中国へ渡った。本校からは、宇都信一君（6期生）が選ばれ、日中教育の交流と、友好親善の役割を果たした。

## ●学級通信

本校では創設以来、毎年、学級通信を発行する教員が何人もいる。100号を突破した人もこれまで何人か。学級通信は生徒と教員の意見交換の場として貴重な役割を果たしている。「先生の学級通信、今でも全部持っているんですよ」と言ってくれる卒業生もいる。



## バレーボール部（男子）

男子バレーボール部の戦歴

昭和57年

- ・近畿高等学校バレーボール優勝大会出場
- ・大阪高校総合体育大会D地区優勝

昭和59年

- ・大阪高校総合体育大会D地区3位

昭和60年

- ・大阪高校総合体育大会D地区準優勝



▲昭和57年度近畿大会……優勝大会

## バレーボール部（女子）

顧問 安西 仁・辻 康子

開校後2年目で部外優勝し現在の部の基礎を作った。それ以後春秋で連続優勝し54年春には1部1位となり58年秋まで1部にあった。その間、54年インターハイ予選ベスト8となり、近畿大会（和歌山）出場、府立高校大会ベスト8、55年インターハイ予選ベスト16で近畿大会（滋賀）出場権を得たが、部の事情により辞退。府立高校大会準優勝、56年、春の高校バレー大阪予選ベスト16、インターハイ予選ベスト8、近畿大会（京都）出場。府立高校大会準優勝57年、春の高校バレーベスト4、インターハイ予選ベスト4、近畿大会（大阪）に出場。59年府立高校大会ベスト4となり現在に至っている。その他泉南地区大会では3年連続優勝、和泉学院招待バレー3年連続優勝を経験している。

## サッカー部

部訓

サッカーマンである前に  
スポーツマンであれ！

スポーツマンである前に  
人間であれ！

一、部なくして我なく、我なくして部なし！

一、必勝の信念は、必死の練習より生ず！

大阪府立泉鳥取高校サッカー部



▲7期生部員一同……長居陸上競技場にて

## 卓球部（女子）



▲女子卓球部

卓球部はこれまで空教室を利用して、地味ながらも練習を続けてきていたのですが、今春、靴箱横に、新しく卓球場ができました。それに徐々に、部員の中にも規律正しさと習慣が身につ

# クラブ紹介／体育系

いてきたようです。基礎体力づくりを中心にしながら、技術面での向上もはかり、こつこつと努力を積み重ねながら戦績をあげ、みんなで力を合わせてさらにクラブを発展させてほしいと願っています。

## バドミントン部（男子・女子）

創設期の活動場所は裸地の中庭と渡り廊下であった。創部のとき男女約40名の部員が、卒業時には10名だった。シャトル（羽根）の魅力を知らずにやめてしまったのは残念だ。4年目の夏、第1回の合宿をすることができ、クラブの土台ができあがった。



▲合宿練習場前で



▲合宿練習風景

この10年間、部員数では女子が優勢である。バドミントンに対するさらなる情熱を期待しつつ、男女とも自主性を大切にするクラブであることを誇りたい。また、卒業後社会人として、地域のク

ラブや少年バドミントン育成のために活躍している先輩がいることはうれしい。

## 柔道部

我が柔道部は本校創立3年目に第3期生を中心として活動を始めました。柔道の基本精神である精力善用をモットーに日々練習に励んでいます。以下に、これまでの主だった成績を記します。

昭和56年—第5期生西野弘二君大阪府強化選手に選出される。

昭和58年—第7期生が西地区学年別柔道大会で第3位に入賞。

第7期生、笹原健一郎君、坂元則夫君の両名が大阪府強化選手に選出され種々の大会で活躍。

その他、西地区の大会ではベスト8に入賞が数回、大阪府下の大会でベスト36に入賞数回。現在も部員一丸となって練習に汗を流しています。

## ハンドボール部（女子）



▲昭和58年

### 主な成績

58年 第38回大阪高校総合体育大会ベスト16

60年 第36回インターハイ大阪大会ベスト16

60年 第40回大阪高校総合体育大会3位

57年度より、私（佐藤）が担当しましたが、当初は他のクラブ同様、部員の確保を最優先にしなければならず、苦しかった事が多かったのですがやっと最近、部員が目標を持ち練習できる程度に成長し、成績面でもその成果があらわれてき

ました。



▲昭昭59年



▲昭昭60年

## 陸上競技部

創部10年を迎え着々と力をつけてきております。

1. 現在部員数48名
2. 顧問 中筋久弥、川崎泰英、由井潔
3. 大阪高校記録保持者  
中田広美（4期生）7種競技4409点
4. 近畿大会出場者  
広田智和子（昭52）近畿高校（ヤリ投）  
池田 裕子（昭52）近畿高校（高とび）4位  
（昭53）近畿選手権（高とび）  
中田 広美（昭54）近畿ジュニア（砲丸）  
（昭56）近畿選手権（7種）3位  
安宮 夏江（昭56）近畿高校（ヤリ投）  
近畿ジュニア（ヤリ投）  
3位  
川崎小夜子（昭58）近畿高校（ヤリ投）2位  
藤沢 守（昭59）近畿高校（ヤリ投）優勝  
（昭60）近畿高校（ヤリ投）
5. 大阪インターハイ入賞者

安宮 夏江（昭57）ヤリ投38m90 第4位  
藤沢 守（昭60）ヤリ投59m14 準優勝



▲昭和52年陸上部一同

## バトン部

私達バトン部は顧問の中村先生、広田先生と部員15名で成り立っています。過去には文化祭のステージ部門で3年間連続優勝という輝かしい歴史も持っていますが、今年は特に10周年記念式典で踊るといことで部員一同はりきっています。曲のふりつけを考えたり、衣裳のデザインも自分達でしました。練習の成果を見て下さい。



▲昭和60年体育祭入場行進

## 軟式庭球部

軟式庭球部は昭和51年4月、1期生20数名で部の第一歩を踏み出した。整備途中の運動場や中庭を転々とし、その度にコート作りや石拾いに明け

## クラブ紹介／体育系

くねながら練習に取り組み、軟庭部の基礎を作った。2年目より男女別に練習をするようになった。3年目の後半によく念願のコートができ上がり、喜びつつ、何か月も毎日ローラー引きをした。戦績は、初めのうちはがんばりながらも、あまりよくなかったが、昭和53年8月、男子が団体新人戦で大阪府ベスト16にはいることができた。女子は、昭和56年8月団体新人戦で府ベスト32には入り、翌57年4月、団体戦でブロック優勝し、中央大会に進出し、府でベスト8にはいった。

そしてその後も、中央大会への壁は厚いが何度も進出している。今までの部員数は、男子50名、女子約80名である。昭和60年8月現在の部員は、女子19名、男子は残念ながら0名である。昭和57年秋からOB会を始め、年2回開いた。

今後は一期生よりの伝統を受け継ぎ、男女ともに部が発展していってくれることを期待している。

### 硬式テニス部（同好会）

硬式テニス部同好会は、今年度発足したばかりですが、会員もほとんどが初めてラケットを握ったという状態のシロウト集団で、最初の数回の練習では、「三振かホームランか」という感じで窓ガラスを割ってしまったこともありました。しかし、1日に数回であります、いいボールが決まった時のあの快感が各自をとらえ出したようで、今のところ落後者もなく、予算のない中、各自でボールを持ち寄ってがんばっています。まだまだ、あいさつなどからはじまって十分な規律が身につけていないことや、練習においても、もっと自主性を発揮していくことなど課題は多いですが、互いに注意し合って直していけるようになりたいと思います。

会員数3年・2年各1名、1年12名（9／5現在）

### バスケットボール部（女子）

女子バスケットボール部は初年度に創設され、1期生から3期生の部員たちの苦労と努力、そし

て何よりも彼らの「クラブ」作りに賭ける情熱によってしっかりとした土台が築き上げられ、その後続く後輩部員達にも当時の苦労を話し聞かせながら現在に至っています。今年度、創部10周年を迎える中で部員・顧問が再び初心に戻りクラブの発展の為に一層がんばっていききたいものです。

現在は1、2年生の新チームにより11月23日から始まる新人大会に向けて練習に取り組んでいます。



▲女子バスケットボール部員一同

### 水泳部



▲中央大会試合風景

本校の創立2年目にプールが完成し、その時以来、水泳部は活動を続けて来ました。第9学区では、殆どの中学校に水泳部がないため、毎年、全くの初心者が、多数入部して来ますが、三年間コツコツ努力する中で、精神的にも肉体的にも大きく成長して、多数の部員が卒業していきました。

卒業後も、OBやOGは練習時や合宿時に来校して、後輩の面倒をよく見ているし、数名はスイミング・スクールのコーチとなって、より専門的に水泳を続けています。水泳は記録との戦いであるため、泉鳥取高校の歴代記録を創部以来整備し、この歴代記録を目指して、練習に励んでいます。現在の實力は第9学区で2～3位。来年は優勝を目指して練習にうちこんでいます。

## バスケットボール部（男子）

キャプテンは1期生から順に、田代、永野、豊岡、北野、太田、橋口、川崎、井上、そして今の南となる。その時々部員の顔を思い浮かべると、それぞれの特徴、カラーが思い出される。その中で、最後までクラブをやり通した者に共通するのは、当然のことかもしれないが、「バスケットボールがなによりも好き」で、それと「男子バスケットボール部のことを思う」意識があったのではないかと思う。

顧問として心残りなのは、バスケットボールに関して未経験であったり、たびたび交替したりで、顧問の役目が十分果せなかったことである。

いつの日か、泉鳥取OBチームが結成され、そのメンバーの一人として試合に出られることを、今、夢みている。

## 剣道部

本校の創立と共に創設された剣道部は今年で十年目を迎えましたが、残念ながらこれといった大きな成果を残すことはできませんでした。しかし高校に入って初めて竹刀を握ったという部員を多く迎えてきた剣道部にとっては、大会で好成績を残すことよりも、のびのびと剣道を楽しむということをもっとしてきました。

現在、3年生2名、2年生4名、1年生6名の計12名が在部していますが、歴代顧問の先生方であられる中村二郎先生・児玉博文先生のご指導を

受けついで、これからも頑張っていきたいと思います。

## ラグビー部

本校開設以来、ラグビー不毛の9学区でラグビー部らしい活動を営々と続けてきました。8月18日には今までお世話になった他校の先生方にも来ていただき、創部10周年記念式と記念試合を行いました。OBも50名をこえ、OB会として財政的援助もしてくれるようになり、あとは現役の諸君の奮起を待つのみです。



▲第64回全国高校ラグビー大阪府予選

## ハンドボール部（男子）

男子ハンドボール部は開校以来活動しているク

# クラブ紹介/体育系

クラブである。初期の頃にはコートも決まっておらずコート作りのため、毎日ゴールポストを持ってグラウンドを右往左往していた。部員も少なく非常に苦労した時代であった。4期生の頃から部員も少ないながら毎日練習に励み、部としての体裁も整い、5期・6期生の頃には大阪南地区のベスト8まで勝ち進んだ。現在部員数は少ないながらも気合いの入った素晴らしい練習をしている。インター杯や近畿大会出場という輝かしい戦績はないものの、練習では他の部には負けていないと自負している。また、OB・現役とも仲よく、いつの日か大阪代表として出場できる日が来るであろう。

## 器械体操部

### 目標と歴史

高校生としてたくましく生き、根気強さ、何事にもベストを尽くすなどを目標にし、全員で日々、努力を重ねてきた。昭和56年度より高体連の大会に出場するようになり、また58年度より部員数が増え、20~30人~50人となり60年度は50名である。他校との合同練習も少しずつ増え、今年度はユニバーシアードも見学した。

### 成績

#### 昭和57年度

春期高校体育大会 男子1部団体総合第8位  
オープン競技1名入賞

高校総合体育大会 男子1部団体総合第4位

#### 昭和58年度

春期高校体育大会 男子1部団体総合第6位  
オープン競技1名入賞

高校総合体育大会 男子1部団体総合第4位  
オープン競技5名入賞

大阪府・上海市友好体操競技大会（大阪にて）  
上野直彦、西口和人、嵐勝彦が出場

#### 昭和59年

春期高校体育大会 男子1部団体総合第6位  
嵐勝彦個人総合第6位オープン競技2名入賞

近畿大会（明石）出場 嵐勝彦

大阪府・上海市友好体操競技大会（中国・上

海・南京）嵐勝彦第6位入賞

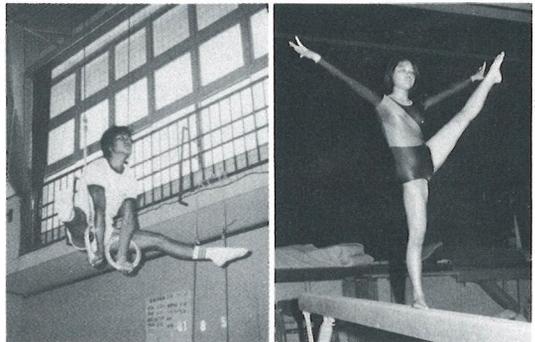
高校総合体育大会 男子1部団体総合第6位  
オープン競技4名入賞、女子2部団体総合第13位

#### 昭和60年度

春期高校体育大会 男子1部団体総合第7位  
オープン競技3名入賞、女子2部団体総合第10位

高校総合体育大会 男子1部団体総合第5位  
オープン競技5名入賞、女子2部団体総合第6位

※なお男子は57年度高校総体より現在に至るまで公立高校の中では第1位の座にあります。また57年秋から堺体操協会主催の大会で相当数の入賞者が出ております。



▲練習の合い間に全員で

### その他のクラブ

男子卓球部

### 過去にあったクラブ

ソフトボール部、ワンダーフォーゲル部、空手道部

## 新聞部

新聞部は卒業生を送る時に活字印刷の新聞を発行し続けてきました。しかし、現在は部員の数が減ったことによりそれもまなりません。できれば、日常の活動（企画、取材、編集など）をしっかりと基礎づくりもやれたらと思います。今年は文化祭への出品も出来ず、文化祭準備期間中にそれを盛りあげるための役割しかできませんでしたが、来年は飛躍したいと思います。

## 演劇部

わが演劇部は、例年文化祭に於ける上演が主な活動目標であり、唯一の発表の機会であったが、今年度からは大阪府高等学校演劇連盟に加盟し、演劇研究大会に参加することになった。これにより、活動の範囲を大きく広めることとなった。現在、脚本作りより始まり、大道具・音響・照明演出など、全てが生徒の自主的な取り組みにより進められている。部員数は決して多くないが、全員が心を一つにし、一人一人が自覚と責任をもって真剣な練習を繰り返している。

## 生物部

生物部は泉鳥取高校では唯一の理科系のクラブであり、その恵まれた自然環境の下で、現在までに次のような活動を続けてきた。

### 1. バードウォッチング

本校では、近くに山と海があり海鳥、山鳥の両方を容易に観測できる。

### 2. 昆虫採集

### 3. 野草採集

### 4. 淡水魚の調査

学校付近の淡水魚の変化について、メダカの生息地、外来淡水魚による変化などを調べている。また、本校付近の川では、大阪では少なくなった、モズクガニなどもみられる。

## 写真部



▲写真部合宿にて



▲写真部作品「帆船祭より」



▲写真部作品「夏の夜明け」

写真部は本校創立以来、自主性をモットーに、学校行事、撮影会、合宿を中心に活動を続け、文化祭でクラブ優勝している。

## 華道部

華道部は、本校創立時からあるクラブで、現在16名のクラブ員がいます。講師の常盤木先生には、創立以来ずっとお世話になっています。卒業したクラブ員は、その後も個人的に華道を習っていることが多いようです。在学中の3年間で習うことは華道の基礎で、その道の奥行はまだまだ深いようです。

## 茶道部



◀お点前に心こめて

我が茶道部は、茶道の山田、井上両先生と、顧問の亀田、玉野先生を中心に、3年生2名、2年生10名、1年生9名の計21名で活動しています。

年間行事としてはまず、新入生歓迎会。お茶を飲んでもらいながらミーティング。文化祭では2年生が中心になって、2日間、お茶会を開きます。この2日間、他の催しは何も見に行けないけれど、誰一人文句を言うことなく、忙しいながらも楽しくやっています。夏期合宿では、昼は自炊をし、割り稽古や普段できない茶事（小懐石）も教えていただきます。また、この頃になると、1年生のお点前も板についてきます。10月には、お団子を

作ってお茶を楽しむお月見会。12月にはクリスマス会があり、炉開きでは、お点前をする位置も、お茶腕も変わる為本格的な茶の道に一步を踏み出したような気持ちになります。冬休みが開けると初釜。一年の初めの釜を使ってのお点前に気持ちがひきまします。

年度最後の行事は、3年生の送別会。お免状を手し、悲喜こもごも、3年間の思い出を語ってくれる先輩、年間を通じて先輩、後輩、また同級生間の喧嘩一つなく、仲の良い楽しいクラブです。

## 書道部

創立2年目に同好会から出発した書道部は創立4年目に部として認められ、今日に至っています。

地味ながらも、文化祭展示、書道コンクール出品、全大阪高校書道展出品等、地道に活動しています。慢性的部員不足に悩まされながら、部員は「やるときはやる」をモットーに、コツコツと自分の作品に取り組んでいます。書道コンクールも毎年、賞をたくさんもらっていますし、部員数の少なさを考えると、部員はよく頑張っています。

今年の文化祭には卒業生もたくさん来て、書道部OB会をつくらうという話もできています。書道関係に進む部員がいないのが残念ですが、高校時代に熱心に書道に取り組んだということが良い経験になってくれるのではと思います。

## 漫画研究部

マンガ研究部では、毎年、文化祭や展示に出すマンガ、アニメのイラスト、ストーリーマンガ、同人誌、カレンダー、しおり、などの作品を書いています。

マン研なので、ストーリーマンガに力を入れているのですが、今まであまり出来なかったのが、次からと思っています。今いる2年も良い作品を書きますが、1年は人数が少ないにもかかわらず作品の方は2年に負けずおとらずそれ以上の者もい

ます。今の2年・3年は1年に期待をかけています。

その他、マン研では学校の行事に使う絵、イラストなども書いています。

## 部落問題研究部

本校創設以来、頑張っています。何故か部員は女子が多いのです。学習に、遊びに、そして文化祭には、パンフ、映画、模造紙展示など回数を重ねてきました。最近は、障害者問題など自分達で企画し、足を運ぶことも多くなりました。ただ、顧問と系統的な話がなかなか出来ず、集中して取り組むことがむずかしいのが残念です。

“熱と光”は3号まで発行。各地域での聞きとりや、合宿での勉強、恒例のバーベキュー大会など是非続けたいものです。



▲文化祭にむけて



▲犬鳴山のハイキング

## 放送部

「自治会を縁の下から支えてきた」これが放送部の誇りです。過去には、NHK放送コンクール朗読部門で全国大会準々決勝突破という実績もありますが、地道な活動を大切にするクラブです。2年生部員、男子部員がいずれもゼロという現状の中に、しぶとく存在するクラブが放送部です。

## 美術部



▲美術展

## その他のクラブ

フォークソング部、美術部、地歴部、吹奏楽部

## 過去に活動したクラブ

英語部、手芸部、ギター部、合唱部



中村 二郎  
現府立和泉工業高校  
定時制教頭

泉鳥取高校の印象はきれいな風景、きれいな校舎、その中で躍動する生徒の姿、とにかく生徒も教師もひたむきであったことである。一期生の入学式は体育館の建つ前の空地で行われた。四月というのに冷い風が吹き、みんなも顔を硬張らせていた。そして「これからの学校造りをするのだ。君達と一緒に！」。教師と生徒の気持が完全に一致したと思えた。そこには420余の素直な、かわいい、ひたむきな顔が列んでいた。その後在職七年、思い出すたびに幾らかの誇らしい思いと若干の悔いが交錯している。



前田 清美  
(旧姓溝口)

私は、開校時に前任校と『兼務発令』で泉鳥取高校に御世話になり、結婚。長男出産までの約7年間勤務させていただきました。新設当時は生徒数も少なく、生徒との年令差もあまりありませんので友達のように話が出来、たのしく毎日を送りました。年々工事も進み施設等も増えました。だんだん学校らしくなるにつれ、色々な行事に参加し楽しい思い出も多く出来ました。一口に七年といっても長いようで、あっという間の七年間でした。今は退職し家庭に入り家業を手伝い、家事、二人の子育てと毎日いそがしく、又楽しくくらししております。



須賀喜思恵  
現府立信太高校

新設だった泉鳥取高校も、もはや押しも押されもせぬ中堅校としての地盤をかため、着々と実績を収められているようす、蔭ながら嬉しく思っています。赴任しました信太高校もやっぱりスタートは新設校、いろいろと泉鳥取高校に学びながらようやく3年目を迎えました。入学してくる生徒の気質はよく似ているものの、やっぱり純朴だった泉鳥取高生のこと、折にふれ思い出します。通勤には30分あれば十分という地の利を生かし(?) 現任校でもがんばっていきたくと思っています。懐かしい皆様方の御健闘をお祈りします。



淵本 俊一  
現府立美木多高校

早くも10周年ですか。私が兼務で泉鳥取高校初代校長石川先生に初対面した後、学内を見廻したときは工事中でした。無事入試も終り、さて次はと考えれば体育館もありません。盛大な入学式もできないので新入生の制服にカーネーションをさそうとなりました。既設校では考えられない状態でしたが、入学者も先生も希望にあふれ、これから泉鳥取を作っていくのだと一致団結したものだと思います。色々と思ひ出もありますが、5年間の短い勤務でしたが、今後の泉取の発展をお祈り致します。



三笠 照郎  
現府立貝塚南高校

先日、泉南市のある病院に行くと、私をごっつい親しげにみつめる看護婦がありました。わしも意外にもてるんやなど、そろそろ中年の魅力でも出てきたか、と喜んでいたら、実は泉鳥取で担任をもった生徒だったのです。私はガクッと来ると同時に、数年前に去った学校とはいえ師弟関係というのはいつまでも残るもんやな、と痛感致しました。生物部で同じ釜の飯を喰った連中はどうしているか、榎尾山や学校の周辺の自然観察をしている時は私の青春だった。今の自分に再びりもどせないものがあそこにはある。十周年を機に、自分も捨てていた昔を深く反省してみよう。



大塚 忠  
現府立大塚高校

もう9年前になります。12月の寒い日だったか、梅田で友人としてたま酒を飲み、千鳥足で深夜帰宅すると、母から泉鳥取高校の校長先生から——すでに亡くなられた石川先生ですが——電話があったという。イズミトトリ？ さてそんな名前聞いたこともないしフラフラの頭で何かの間違いかとも思ったが、イズミを頼りに地図を開いてみると確かに南の端にある。そしてそれから8年、学校も教師も若くかつ泉州のにおい溢れる中での新任20代の教師生活、私生活でも結婚そして子持ちと、いろんな思いのつまった泉鳥取時代です。

田村 陽一

現三重県教育委員会  
文化課

新卒の新米教師の新設泉鳥取高での悪戦苦闘の日々。それは、青春映画のような、ほのぼのとした情景と、苦々しいものが入り混じった不思議な味のする思い出です。どれだけ取っても下から生えてくるように顔を出す石に、呆れ果てた中庭のテニスコート造り。予算なしでボールは杭、ネットはひもで代用。苦しく情なかったけど、皆で励まし合いがんばった女子テニス部のみんな。そして力不足を思い知らされた担任としての自分。学ぶことばかりの5年間でした。

小野真砂子

(旧姓安光)

泉鳥取高校創立十周年おめでとうございます。三学年そろったその年に、泉鳥取高校の地に立たせていただきました。わずか三年間でしたが、今の私にとって何と大きなことか、時間が経つにつれて心の中に大きくなっていくようです。高史明さんの講演、鳥取県での宿泊水泳訓練、風の強い、日射しのきつい、遠くの海を見た長い校舎、心にうかびます。在校生、教職員のみなさま、そして卒業生のご活躍と泉鳥取高校のご発展を、一主婦として心から応援しております。

## 旧職員より一言

藤本 美可  
(旧姓北川)

もう10年を迎えるのですね。思い出すのはあの高台にある校舎です。今のように家が建ち並んでいなくて造成地ばかりでした。その間の道をクラブ活動の生徒達はよく走ったものでした。偶然にある所で1期生の旧姓Kさんに会いました。りっぱなお母さんになっていましたよ。うれしかったですね。しっかりと歩んでいるのだなあと思いました。私は病気でなくした小さな息子の初盆を主人と二人でおくっています。皆様が健康な毎日をお送りできますよう心から願っております。またお互いに励ましあって頑張りましょう。



黒坂 峻  
現府立生野高校

エネルギーの塊みたいな多くの先生方と素朴な生徒達にもまれ、校舎の窓から一望のもとに見渡せる大阪湾の景色に明日への希望をふくらませた七年間を今なつかしく思い出しております。誤解を恐れず生徒のためによりよい教育をせんものの一丸となって突き進んだあの日々が私自身を大きく成長させてくれたことを実感として感じる今日この頃です。現任校の日々の、泉鳥取での経験が何かと役に立っている事実が、泉鳥取のすばらしさを証明しているように私は思います。十周年を機に泉鳥取高校に一層の飛躍がもたらされるよう願っております。



丸村 真弘  
現和歌山県立南紀高校

教職について今年で9年目になりますが、泉鳥取高校にお世話になった初めの5年間で、いろいろな意味で最も充実していたように思います。当時、私は若さと無知にまかせて、生徒諸君に随分きついことを言い、いろいろなピントはずれの要求をしましたが、生徒諸君は私の未熟さをカバーし、それによく応えてくれたように記憶しております。現在、南紀高校という定時制高校に勤務していますが、日本の教育の諸矛盾をすべて抱えたような学校で、自分の教員としての力量が問われ続ける毎日です。



津田 昭一  
現堺市立百舌鳥中学校

開校当初より6年間お世話になりました。理科の実験実習の仕事をしておりました。一番の思い出は、男子バレー部のコーチをしたことです。私事で3年間しかできませんでしたが、勉強になりました。コーチをやめる時にみんながくれたサインボールは、今でも大事にしています。あの時のみんなは今どうしているのかな、とったりもします。私は現在、堺の中学校で国語を教えています。担任と、もちろん男子バレー部の顧問もしています。早くあの時のようなチームにしたいと頑張っています。



中村 幸子  
(旧姓松本)  
現府立信太高校

初めて教壇に立った学校というのは、それだけでとても思い出深いものがあるようです。いろいろな生徒や先生方との触れあいの中で、さまざまな生き方を見せられ、時にほんの少しですが、それらにかかわってきました。けれどもいつもいつも、教えられ支えられてきたように思います。現在勤務している学校は、新設三年目で、その基礎づくりに皆頑張っています。来春巣立っていく一期生に、泉鳥取の八期生の姿を重ねながら、全員卒業できることを楽しみに、毎日大声で授業しています。



柿花 直美  
(旧姓植原)

創立10周年おめでとうございます。

早いもので退職して2年になります。3年半お世話になりましたが、授業、クラブ、臨海、どれもよい思い出です。今だに泉鳥取高校が身近に感じられるのは主人の話が聞けるから、そして、先生方や卒業生に会っているんな昔話ができるからでしょうか。現在は12月で2才になる息子相手に保育の実習をしています。いつか又、泉鳥取高校の家庭科室にもどれたらと思っています。時々息子をつれて遊びに行きますのでよろしく願います。



井邊 清子  
(旧姓安井)  
現府立池田北高校

泉鳥取と聞くと随分昔の世界のような気がし、創立十年と聞くと、まあ、そんなになるのか、とも思います。それだけこの十年が私にとって、変化に富んでいたのかもしれない。その十年のうち五年をお世話になった訳ですが、今から思うと何の役にも立たない、困った助手だったようです。高校を出てはじめて出会った社会が又高校で、ちょっと変わった学生生活の延長だったのかもしれない。その分まわりの方には御迷惑だったでしょう。私にとっては成長課程の一段階だった様です。毎日、色が変わる海がとっても印象的でした。大阪の北の端、山のふもとから、今日、海の色は何色かと思いをめぐらせています。十周年おめでとうございます。



湯川 曉人  
現府立砂川高校

昭和52年、川崎市の下宿へ石川校長からの電話があった。「こちら大阪の泉鳥取高校ですが、先生、四月から来て頂けますか」小生あわてて電話器に向かって正座した。「はい、ええ」。

「先生」と呼ばれたことが非常に面映ゆかった。爾来5年間お世話になった。様々な経験をした。そして今では先生と呼ばれることにすっかり馴れてしまっている。

付記。本年四月、運命の定めるところにより結婚。

## 旧職員より一言



木本 和利  
現府立高槻南高校

泉鳥取高校の3～5年目に、スタッフの一員として毎日、坂を上りました。中庭に時計塔が立ちました。坂道にブロック塀が出来ました。校歌が生まれました。教師になって初めて勤めた学校、思い出でいっぱいです。毎朝、自転車であの坂を上る時も、光溢れる校舎内の階段を上っていく時も、ここは大きな世界に翔び立つための国際空港なんだと感じていました。泉鳥取高校で学んだ若者たちが、大空に翔び立っていき、活躍されることを期待しています。僕は現在、別の空港で働いています。教師8年生、今も走り続けています。



藤原 義次  
現大阪府企業局

泉鳥取高校が創立10周年になると聞いて学校勤務の3年間を思い出します。赴任は第1回卒業の年、1月1日付でした。卒業式（証書授与式）の準備にかかったが、証書の氏名を誰が書くかで悩んでいた所、石川校長が「私が書きましょう」と言われ、セッセと書かれました。式当日は非常に寒く、演壇に登ると足下から寒さが伝わり震えたのをおぼえています。この時以来石川校長は病気を悪化させたのではないかと。卒業生419名が社会人として立派に成長していることを願うと共に、今は亡き石川正敏校長の御冥福を心からお祈りします。



石川 正浩

三階から遠く海の向うに神戸・淡路島の山々ものぞめる大自然美にめぐまれ、学校関係者生徒がそれぞれの目標に向い、相互理解、平和な社会の建設目指して前進している、の感が強いのが私の当時の思い出です。当時、各生徒の自主独立は大きな目標で成果をあげていました。一步進んで各界で、例えば核戦争を、そしてがんの病気を根絶する程の大リーダーも、育成することも忘れてはならないことだと思います。私は英語教育の面から「一隅を照らす」つもりで毎日を送っておりますので今後ともよろしくお願い致します。



中井 隆  
現府立堺東高校教頭

はや創立10周年ですね。おめでとうございます。今、泉鳥取高校での1年9ヶ月を思い返しています。眼下に緑の丘が広がり、その彼方にサンフラワー号を浮かべた海がきらきらと輝いていました。人なつこく素直だった生徒の皆さん。途中で学校を去ることになり、学級の皆さんにも、先生方にも御迷惑をかけました。お別れに植えたドイツ菖蒲が毎春大輪の花をつけていますとか。嬉しい限りです。皆さんの丹精のお蔭です。校舎も校庭の樹木も歳月とともに学園として静謐の雰囲気醸成することでしょう。一層の発展を祈っています。



森尾 正江

現府立信太高校

創立10周年おめでとうございます。私は57年度のわずか1年間ではありましたが、泉鳥取高校に勤務させていただきました。当時、1年生を主に担当していたのですが、その生徒達も今春卒業し、スーツを立派に着こなして、さっそうと歩いている姿などを見かけると、時の過ぎる早さをつくづく感じさせられます。現在私は第8学区の信太高校で1年生を担当しています。泉鳥取は私の教員としてのスタート校でありその時の体験が今、随分役に立っています。泉鳥取高校の益々のご発展をお祈りいたします。



森貞 綏

現泉南府民センター

創立10周年おめでとうございます。本年4月1日から大阪府泉南府民センターに勤務しておりますが、過日管内4町の職員研修を実施したところ、貴校の卒業生が参加していました。私が勤務していたときの卒業生だったことと、将来立派な町職員になってほしいという期待から「頑張るんだよ！」と声をかけないではいられませんでした。緑に囲まれた、眼下に淡路島、六甲の山々が見渡せる泉鳥取高校は私にとって思い出に残る職場の一つになることでしょうか。最後になりましたが、貴校が一層発展されることをお祈り申し上げます。



加藤 順一

現府立上神谷高校長

夕陽が沈む頃校舎を背にしてあの階段を下りる時無事仕事を終えた充実感と疲労を味わいながら、緑濃い優れた環境でずっと昔からこのように過して来たような気持ちになっていました。ほんとうに多くの事を学ばせて頂いた泉鳥取高等学校創立十周年おめでとうございます。十周年を目前にして転出してしまい、記念行事を推進して頂いた皆さんには申し訳ない思いでいます。今後の十年には、新空港関連や生徒急増の問題がありますが、輝かしい歴史が続くことを確信しています。



射手矢 豊和

現府立貝塚南高校

新採で泉鳥取高に赴任して7年、数多くのことがありました。2年目、「社会一般」（選択）の授業で、半年のあいだ生徒のグループ発表をつづけ、あの子たちもこちらもしんどかったけれど、いろいろと教えられました。その成果をつづった生徒のレポートを、数十頁の冊子にまとめた『15年戦争』は、今も貴重な宝になっています。7年間、同僚からも、とくにたくさんの方の生徒たちからも、数多くのことを教えてもらい学んできました。この春転任になりましたが、泉鳥取は教師としての自分自身の故郷のように思います。



## 生徒自治会の発足

卒業生（一期生）  
柴田 稔

和泉山脈を背に大阪湾を眺める自然田の丘に、校舎の一期工事を終えた泉鳥取高校が我々を迎えてくれた。その年の秋、体育祭を行った。先生方からご指導をいただき、代議員会・執行部と体育委員が中心になって行事を企画・運営した。2年目には、生徒自治会が発足し、文化祭も開催した。発足後まもない生徒会活動は試行錯誤の連続であった。—そして今、泉鳥取高校が自分たちの母校であるならば、在校生の奮闘を祈り、応援者となるべきだろう。OBは社会人や学生などさまざまであるが、各人の活躍が母校をよりよくする力になると思う。また、高校を訪れてクラブ活動の指導にあたっておられるOBや同窓会をお世話下さっている方々がいて、日々努力されていることを特に記しておきたい。

(近畿電子産業健康保険組合勤務)



## 私の反省

卒業生（一期生）  
下出 千昭

高校を卒業して、早や7年目になります。高校の3年間は私にとって、とても楽しい時でした。友人にも恵まれ、先生方にもずいぶん多くのことを教えられ、与えていただきました。当時、新設

校で学校設備は不十分でしたが、先生方の熱心な御指導のもとで、色々な工夫をこらした行事もなつかしく思い出されます。今、教える立場になって思うことは、このような楽しい思い出と共に、自分自身に対する反省とも言うべきことです。高校時代、先生方に話していただいたことや、していただいたことについて、自分はなんと無感動だったのかということです。考えの浅さから無駄にしまったもの多さです。どうかより多くの場で、先生方、人生の先輩達の言葉に耳を傾け、自分なりに考え、より意義深い時間を過ごしてほしい。これが私の後輩達に贈る言葉です。

(阪南町立貝掛中学校勤務)



## 私の高校生活

卒業生（一期生）  
森元 勝

月日の流れは早いもので高校を卒業してから七年になります。一度志した国立大へ向けての浪人生活が二年、それに学生生活が四年。やっとこの四月に教職へ就くことが出来ました。それもこれも高校生活の三年が私にとって最も有意義に思えてなりません。なぜならば、私は高校を卒業したら就職しようと思っていましたが、諸先生方の温かい御指導を受け進学することにしたからです。また、クラブ活動（サッカー）を三年間続けたことが非常にプラスになったと思っています。泉鳥取高校は泉南一帯を一望出来る高台にあり、勉強とスポーツをするには最高の場所にあるといえるでしょう。今、私は夏休みでクラブ活動、研修等

で毎日忙しく過ごしています。後輩の皆さんも高校生活を悔いなく目的をもってがんばって下さい。

(泉佐野市立第三中学校勤務)



## いきいきと生きる

卒業生(二期生)

農端 正起

高校時代というのは「猪突猛進」の時代です。思い立ったら、あれこれ考えずにまたやってみる。自分の目で見て、耳で聞いて、体験してみる。その積み重ねが、自分の考え方を生み出す第一歩です。とりわけ高校時代のように年端も行かない頃の体験は、待ち受ける人生の大半を生きていくうえで、大きな指針となり、自信となるものです。にもかかわらず、思い立っても行動に移せないのは、新しい世界に飛びこんで行く勇気がないだけです。そういう人は自らの成長を自らで止めてしまっているのです。というのは人間の能力には誰しも大差がありません。差がついたとすれば、それは努力の差です。自らの可能性を信じて弛ゆまぬ努力を望みます。(株式会社大信販勤務)

ですが、早いものですね。私は3期生で卒業してから5年が経ち、高校時代のことも薄れつつあります。その中で思い出される事は、クラブでお茶を飲みながら、先生方と友達同様に接し、話をした事です。修学旅行や文化祭等いろいろある中で、なぜか不思議に思い出されるのです。たぶん仕事柄、信頼関係の大切さを知ったからだと思います。現在私は看護婦として、小児科病棟で働いています。毎日子供を相手に悪戦苦闘しています。子供は無邪気で疑う事を知りません。教えられる事がたくさんあり、毎日が勉強です。又、目上の方から注意を受けることも度々ですが、うれしく思い注意されたことは二度としない様努力しています。社会人になり一番感じる事は、責任の重さです。学生時代は、先生や両親がフォローしてくれるためあまり考えることもありませんでしたが、今はすべてが自分にかかってきます。特に私の場合、生命とかかわることであるため、一層肩のしかかってくるのです。在校生の方にたいした事は言えませんが、自分自身の行動、言動に責任を持ってほしいという事と、一度ふり返って評価してほしいという事です。評価する事により、自分自身も大きくなるだろうし又、前進する事にもなると思うからです。(和歌山労災病院勤務)



## 責任と評価

卒業生(三期生)

歌坂 裕子

泉鳥取高校も今年で10周年を迎えるということ



## 今、見えてきたこと

卒業生(五期生)

竹内 浩一

創立十周年、おめでとうございます。現在私は、

シャープ株式会社に、システムエンジニアとして勤務しています。社会人となってからは、一日一日があっという間に過ぎて行き、気が付くと季節が変わっていたという事の繰り返しですが、私が泉鳥取高校を卒業してから、もう二年が過ぎようとしています。この二年間の社会人生活を通して、一つだけですが在学中には見えなかった事が分かるようになった気がします。それは、何か成そうとした時、何事も自分一人の力だけでは出来ないという事です。当り前の事ですが、それが在学中には、私は分からなかったのです。先生方や友人達には、学級生活でもクラブ活動でも大変お世話になりました。この場で礼を言わせていただきます。在学中を振り返ると、様々な事が思い浮かびますが、特に部誌の発行や、文化祭の発表のために皆で、遅くまで残り、部活動をした事が印象に残っています。在学中に発行された三冊の部誌は今も本棚にあります。（自分達が成し得た事が、何らかの形で残るといいですね）今後も、母校のより一層の発展を願いますと共に、私も卒業生の一人として母校の名に恥じない様、努力したいと思います。（シャープ株式会社勤務）



## 自分の進路は 自分で

卒業生（六期生）

野口 恵子

現在私は昼は働いて夜は学生という生活を送っています。こんな二重生活をしていると、どうしても時間が（特に睡眠の）足りなくなりがちで、かなりの疲れを感じることもしばしばです。まあ

それでも何とかやっていけるのは自分が好きで選んだ道だからだろう。後輩諸君！進路なんてものは、親・教師に選んでもらうものでは決していないのですよ。自分の決めたいように決めるのが一番です。そうでないと、卒業後「高校の時に戻りたい」なんていう言葉がふと出てしまうなんてことになりがちです。常に現在を大切に生きていればそんなふうにはならないんですけどね。それから「自分のやりたいようにやれ」という言葉が与える自由にはそれなりの苦勞もついてまわるということを忘れないように。やりたいことをやるためには、それなりの努力が必要とされる場合がほとんどです。そこには往々にして「妥協」が出現しがちですが、なるべくなら、それらの誘惑に負けないように初志貫徹の精神を持って行動するよう心がけて下さい。（だからといって唯ガンコならいいっていうもんじゃないですよ。）最後になりましたがあと一つだけ、進学したい人、朝2時間、晩4時間は平日でもやっとなないと来春、T予備校やY予備校の前で肩を落として立ちつくすことになりますよ。（もちろんそうでない人もいますが）出る単1冊を6回くらいは目を通しておくと後が楽だということを、私の経験から記しておきます。

（大阪市立大学商学部Ⅱ部在学）

1. 卒業生（1～7期生）の進路状況

入学定員(人)	卒業生(人)	大学	短大	専門学校	就職	その他
1期生 450	419 (昭54.3卒)	8	11	18	52	11
2期生 552	503 (昭55.3卒)	15	12	8	62	3
3期生 564	507 (昭56.3卒)	9	6	14	65	5
4期生 470	430 (昭57.3卒)	6	5	17	63	8
5期生 517	475 (昭58.3卒)	5	5	11	69	10
6期生 470	442 (昭59.3卒)	3	5	12	65	15
7期生 423	397 (昭60.3卒)	4	6	10	61	19

(グラフ中の数値は%)

2. 進路指導年間計画——昭和60年度 第3学年（1.2年は省略）

- |  |  |
|--|--|
| 4月10日(水) 第1回進学・就職模試                              | 7月20日(水) 進路説明会(就職希望者)                          |
| 16日(火) 進路(就職)ガイダンス(～18日まで)<br>「進路志望調査、面接試験のために等」 | 8月16日(金) 就職生登校日就職希望カード配布                       |
| 23日(火) 第1回模擬面接(～5月8日まで)                          | 28日(水) 学校求人縁故受付締切<br>第3回進学・第4回就職模試             |
| 5月9日(木) 進学H.R.「近畿統一用紙について」<br>進学説明会(進学クラス)       | 30日(金) 就職第1希望企業報告(担任に)                         |
| 16日(木) 卒業生報告会                                    | 9月2日(月) 受験希望企業の事前調査(～5日まで)<br>共通一次案内配布(9月1日より) |
| 21日(火) 企業訪問(～25日まで)                              | 6日(金) 就職希望カード提出・第1回校内選考                        |
| 25日(土) 3年保護者向け進路説明会(午後)                          | 9日(月) 第2回校内選考                                  |
| 29日(水) 専門学校説明会                                   | 11日(水) 第3回校内選考                                 |
| 6月11日(火) 第2回進学・就職模試                              | 12日(木) 進路説明会(学年集会)                             |
| 26日(水) 第2回模擬面接(～7月3日まで)                          | 24日(火) 第4回進学・第5回就職模試                           |
| 7月16日(火) 第3回就職模試                                 | 25日(水) 担任指導による模擬面接(～28日まで)                     |
| 7月16日(火)   | 10月1日(火) 入社試験開始                                |
| ～ 第3回模擬面接と進路当番                                   | 11月1日(金) 共通一次出願(～9日まで)                         |
| 8月30日(金)   |  |

# 旧職員異動表

## ・創立年度（昭昭51年）の教職員



氏名	担当	在職年度	現在
石川 正敏	校長	51~54	故人
八木 幸治	〃	54~56	浪速予備校
吉岡 光雄	〃	51~58	三国丘高校校長
加藤 順一	教頭	56~59	上神谷高校校長
中村 良男	国語	51~52	佐野高校
石上 郁子 (村上)	〃	52	茨木西高校
辻 久代	〃	52	門真高校
家氏 潤子 (上井)	〃	53~54	西淀川高校
山村嘉之助	〃	54	故人
島田とよ子	〃	54	〃
樫畑 紀子 (刀祢)	〃	53~55	和歌山市立東中学校
谷 恵美子	〃	52~56	大阪女子大大学院
小野真砂子 (安光)	〃	53~56	〃
土井 美紀 (橋口)	〃	55~56	久米田高校
中村真知子	〃	51~56	〃
尾崎 栄子 (房)	〃	56	〃
湯川 暁人	〃	53~57	砂川高校
田中 豊彦	〃	53~58	高石高校
堤 俊憲	〃	54~58	貝塚南高校
森尾 正江	〃	57~58	信太高校
児玉 博文	〃	52~59	佐野高校

氏名	担当	在職年度	現在
宮崎 直子	国語	58~59	八尾南高校
辻 要子	〃	59	
原 三千代	〃	60	
浦島 恭子	社会	52	
福本 光宏	〃	52~53	
山口 潤一	〃	53~55	
矢野 敏行	〃	54	
中道 久雄	〃	54	
相見 英咲	〃	54	
田村 陽一	〃	51~55	
田中 康夫	〃	55	三重県教育委員会文化課 西淀川高校 鳥飼高校 高石中学校 同志社大学 福泉高校 大塚高校 貝塚南高校 久米田高校 美木多高校 守口高校 和泉工業高校 定時制教頭 久米田高校
牟田口映二	〃	53~56	
笠間 弘文	〃	53~57	
保井 温	〃	57	
加茂 正典	〃	57	
新保 敦	〃	58	
大塚 忠	〃	52~59	
射手矢豊和	〃	53~59	
山本 聡子 (井田)	〃	57~59	
若狭 玄直	数学	52	
南 賢一	〃	53	
渊本 俊一	〃	51~55	
小滝 修	〃	55	
岡本 博文	〃	51~56	
中村 二郎	〃	51~57	
河内 龍哉	〃	53~57	
溝端 貢	〃	56~57	

# 旧職員異動表

氏名	担当	在職年度	現在
正木健志郎	数 学	53~58	大塚高校
一居 孝典	〃	57~58	福泉高校
恩地 博章	〃	58	泉南中学校
三原 真人	理 科	51	貝塚高校
阪井 勝之	〃	53	
高橋 雄治	〃	52~54	守口高校
友田 隆三	〃	51~55	泉南高校
柏木 久弥	〃	55	立命館高校
山口 幸宏	〃	55~56	成法中学校
河内 雅文	〃	56	
三笠 照郎	〃	51~57	貝塚南高校
丸村 真弘	〃	52~57	和歌山県立南紀高校
真田 雄一	〃	53~57	就実高校
平松 和子	〃	53~54	
小林 寛三	〃	52~53	金岡高校
黒坂 峻	〃	52~59	生野高校
鈴木 泉 (武本)	〃	58~59	三重県立上野高校
藤本 美可 (北川)	保健体育	52	美木多高校
前川 和昭	〃	55	
阿多 裕子 (池田)	〃	53~59	
前河須美子	芸 術	51	
九鬼 恵章	〃	52	浄妙寺
佐藤 吟子 (辻)	〃	51	
古石 伊澄	〃	54~55	
上田 敬文	〃	56	
須賀喜思恵	〃	56	
岸本 書子 (合田)	〃	51~57	信太高校
佐々木和子	〃	52~57	
津川 昌司	〃	57	砂川高校
湯藤恵美子	〃	57	
古野 昭	〃	55	
田吹 礼子	〃	58~59	
中島加津美	家 庭	52	
河原万寿美 (蓮池)	〃	52	
古市 明子	〃	53	信達中学校
岡 栄子	〃	53	
大黒美智子	〃	54~55	
上田 如月 (松葉)	〃	54~58	信達中学校
柿花 直美 (植原)	〃	55~58	
武光 智子	〃	59	
七尾 英子 (松田)	英 語	51~52	勝山高校
松田江利子 (伊藤)	〃	53	高槻北高校
室 良技	〃	53	
辻 陽一	〃	51~54	帝塚山学院
嶋田 和代	〃	53~54	泉南高校
松本 純一	〃	53~54	泉鳥取高校

氏名	担当	在職年度	現在
山本 朗則	英 語	54	泉大津高校
大庭麻理子 (西浦)	〃	51~55	貝塚高校
木本 和利	〃	53~55	高槻南高校
江藤由美子 (村下)	〃	55	
踞尾 龍一	〃	55	
石川 正浩	〃	54~56	
辻 睦美	〃	56	
細尾 俊之	〃	52~57	登美丘高校
土井 健司	〃	55~57	福泉高校
中井 隆	〃	56~57	堺東高校教頭
浅野 和美 (石神)	〃	56~57	
大谷 淑子	〃	56~57	
川崎 鶴子	〃	58	
中村 幸子 (松本)	〃	52~59	信太高校
北橋 久子	養 護	51~53	府立盲学校
山本 裕子	〃	57	
春川 啓子	〃	59	岸城中学校
津田 昭一	実習助手	51~56	中百舌鳥中学校
井辺 清子 (安井)	〃	52~56	池田北高校
角田 裕子	産休実助	56	
北出 梨恵	〃	58	
大沢 温幸	事 務 長	51~53	砂川高校事務長
福本 成道	主 事	51~54	府教委、社会教育課
太田 操男	技 師	51~54	美木多高校
藤原 義次	事 務 長	54~56	泉北整備事務所
林 重樹	主 事	52~56	泉北教育事務所
前田 清美 (溝口)	〃	51~57	
藤木 誠夫	技 師	51~57	福泉高校
田中 春徳	事 務 長	57~58	滝畑ダム管理事務所
森貞 綏	事 務 長	58~59	泉南府民センター

# 現職員一覧表

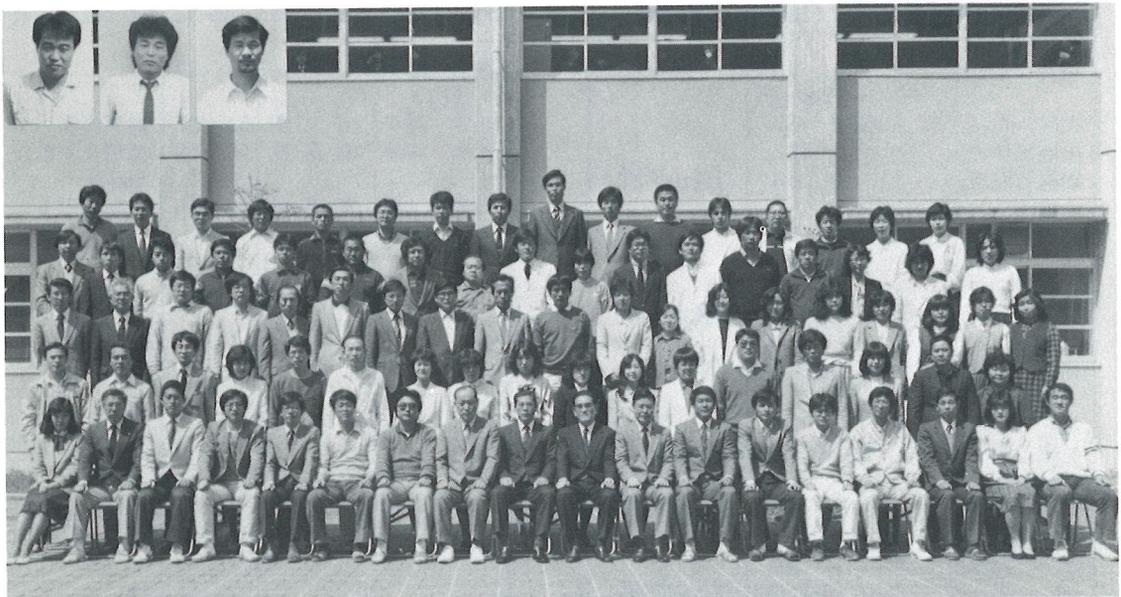
教科	氏名
校 教 国	長頭語
	岸本 忠一
	反甫 昌三
	中村 悦子
	山口 弘
	田中 典子
	南 美千夫
	江口 達也
	三好 俊英
	玉野 圭子
	三宅 欣市
	岩崎江津子
	海野 瑞恵
	井脇 貴子
	釘貫 栄子
社 会	市村 昌三
	山本 勇
	梅川 邦夫
	岸川 和夫
	時藤 知之
	原田 益勝
	高橋 每彰
	藤基 佳子
	南 英世
	辻 清孝
	中井 哲男
	大家 孝雄
	秋月 弘司
	山本 英雄

教科	氏名
数 学	永井 仁司
	北出 憲一
	榎木 三重子
	炭鎌 伸司
	近沢 啓成
	鈴木 守郎
	林 一光
	大江 正記
	塩谷 亘
	山之内 豊
	辻 康子
	中村 直
	古野 仁美
	小西 紀満
	中筋 久弥
理 科	上林 正博
	村田 悟
	聖居 隆
	萩原 直樹
	岡村 多加志
	浜本 泰治
	平川 勉
	坂口 公男
	小林 真由美
	北村 圭子
	森口 泰男
	安西 仁
	岸本 章嗣
	保健体育
	"

教科	氏名
保 健 体 育	由井 潔
	川崎 泰英
	佐藤 幸弘
	梅田 宏子
	柿花 和夫
	長谷川 晃
	藤田 繁也
	名倉 一好
	浮田美恵子
	赤木 龍吉
	堀江 靖之
	吉田 幹子
	小南 恵子
	広田 隆子
	佐々木 孝子
音 楽	河村 啓子
	川上 雅子
	北浦 千恵美
	竹村 安子
	伯耆 佳代
	亀田 信美
	小嶋 妙子
	浅野 拓也
	中野 孝雄
	山本 三郎
	植村 妙
	貝谷 宏
	森 建夫
	美術
	書道
家庭	
英語	

教科	氏名
英 語	伊藤 雅司
	松本 純一
	酒井 政子
	藤井 真喜子
	梅本 春代
	花岡 香代子
	西辻 耕一
	易本 清昭
	播本 次男
	上田 利文
	藤田 雅子
	花野 仰彦
	木戸 亜子
	松下 武雄
	浦尾 宗雄
養 護 実 習 助 手	井上 雅通
	清水 砂貴
	松田 子ヨ子
	上 富美子
	田中公一郎
	池田 讓二
	津田 麗子
	事務長
	査事
	技師
	非常勤補助
	非常勤補助
	校医
	歯科
	薬剤師

## ・創立10周年（昭和60年）の教職員



### 故石川正敏初代校長を悼む

創設期の苦勞を全教職員と共にされ、今日の泉鳥取高校の基礎を築いてこられた石川先生は、昭和60年3月25日、御逝去されました。いつも飄々と

親しみのある風貌で生徒にも教職員にも敬愛されていた先生の生前のお姿をなつかしく思い出すと共に、慎んで哀悼の意を表します。



## 編集後記

昨年の夏、10周年記念事業委員会が発足し、同時に記念誌編集委員会もスタートを切りました。ところが日々の教育活動の忙しさの中で、記念誌にまでなかなか手が回らず、具体的にとりかかったのは今年度にはいつてからというありさまでした。他校の記念誌を参考に内容の検討、原稿の依頼、原稿の執筆、校正とあわただしく編集の作業を行ない、ようやく完成にいたりしました。その間、5人の編集委員は担任や分掌の仕事あるいは専門委員会の仕事、クラブの指導等を抱えた上でのことで、非常に多忙きわまる毎日でした。途中、委員の1人が入院するという事態もありましたが、多数の皆様方の御協力のおかげで発刊の運びとなりました。御協力ありがとうございました。

さて、できあがりました記念誌はいかがでしょうか。皆様の御期待にそえるような内容かどうか心配しております。創設以来10年の本校の教育を総括し、次の何周年目かへの土台となるようにと編集しましたが、まだまだ不備な箇所も多々あると思います。しかし、この冊子を皆様が親しみをもって御高覧下されば、編集に携わったものにとりましては望外の喜びでございます。

発行日／昭和60年11月16日

発行／大阪府立泉鳥取高等学校

大阪府泉南郡阪南町自然田854の1

電話 0724-71-2921

編集／創立10周年記念誌編集委員会

表紙デザイン（題字も） 赤木龍吉（本校教諭）

印刷／出版樹々／株式会社日東印刷



